

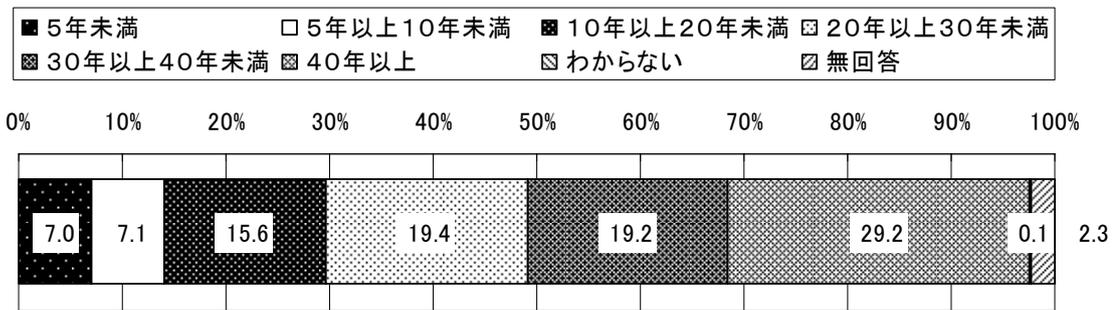
3. 集計結果の分析

3.1 奈良市の住みやすさについて

1) 居住年数

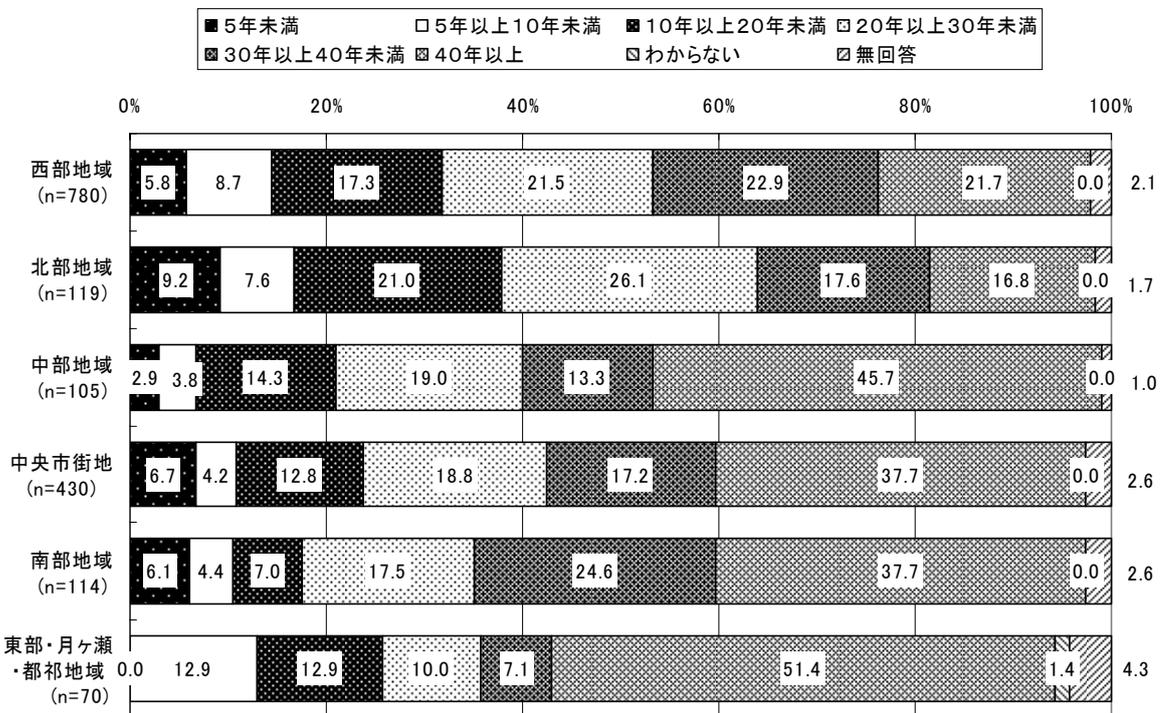
問1 あなたは、奈良市にお住まいになって、何年になりますか。(あてはまるもの1つに○)

図3.1.1 居住年数【n=1,810】



奈良市の居住年数について、40年以上の方が29.2%と最も高く、20年以上の方が3人に2人の割合となっている。(図3.1.1)

図3.1.1-1 地域別 居住年数

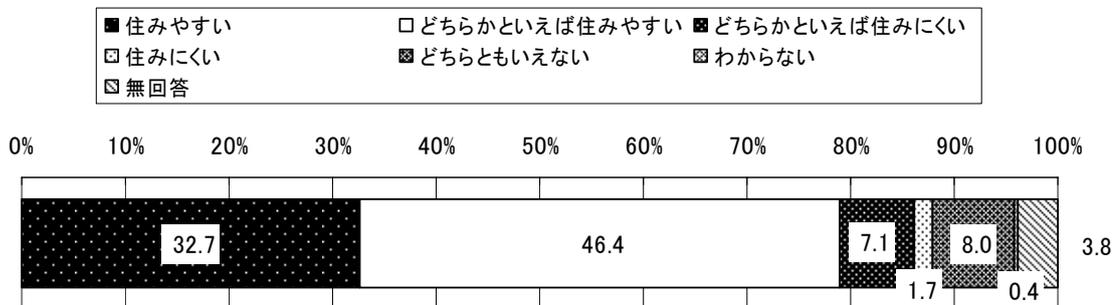


地域別にみると、西部地域、北部地域では比較的居住年数が短い。一方、東部・月ヶ瀬・都祁地域は「40年以上」が5割を超えている。(図3.1.1-1)

2) 居住地域の住みやすさ

問2 あなたにとって、お住まいの地域は住みやすいと思いますか？
(あてはまるもの1つに○)

図3.1.2 住みやすさ【n=1,810】



居住地域の住みやすさについて、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計が79.1%で8割に近く、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」の合計は8.8%となっている。(図3.1.2)

図3.1.2-1 性別 住みやすさ

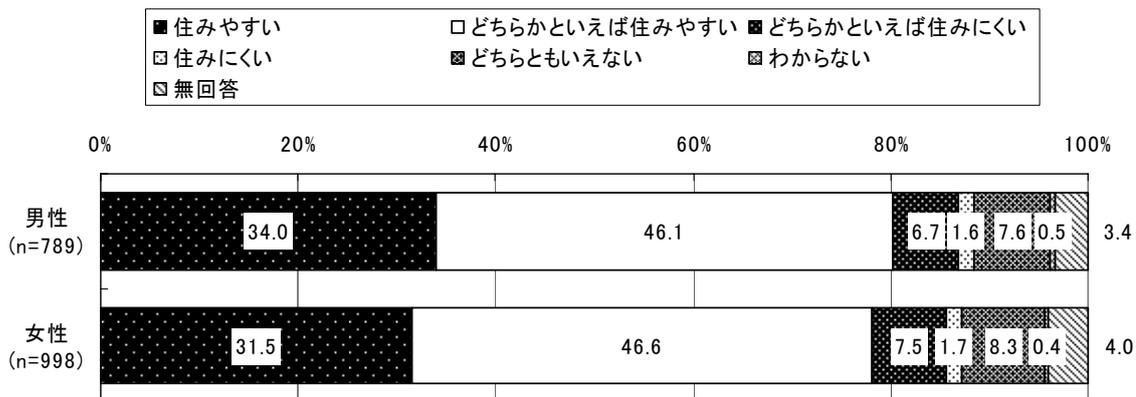
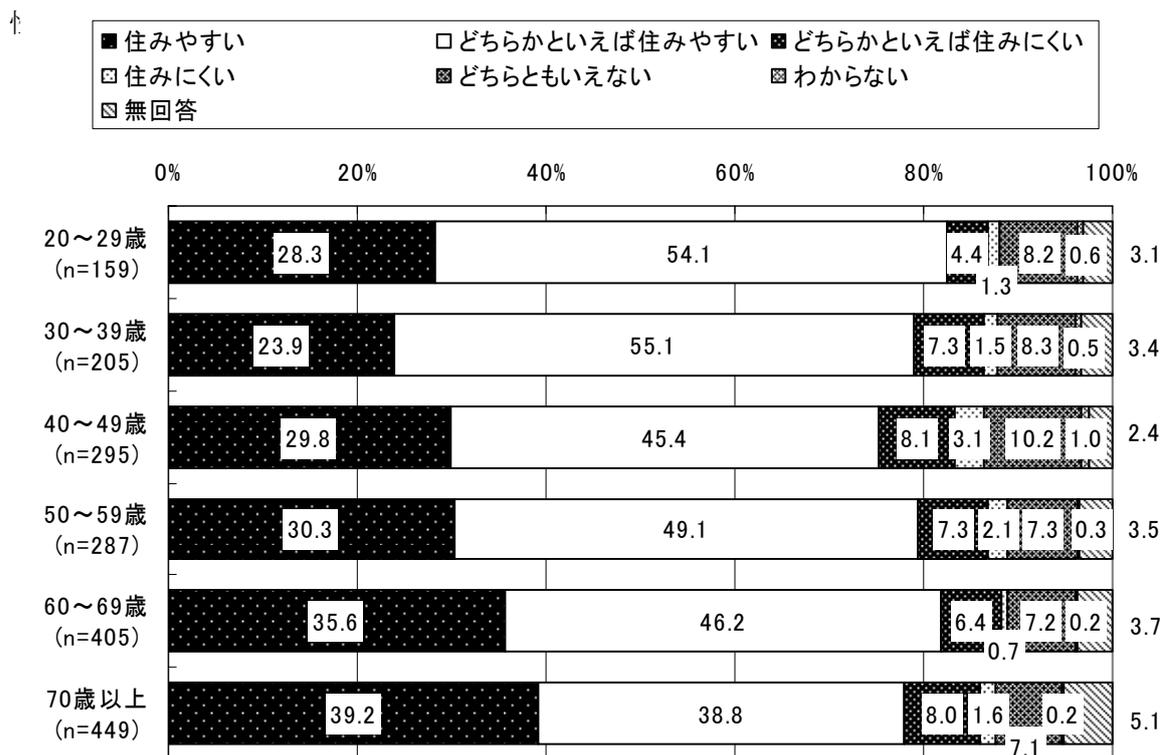
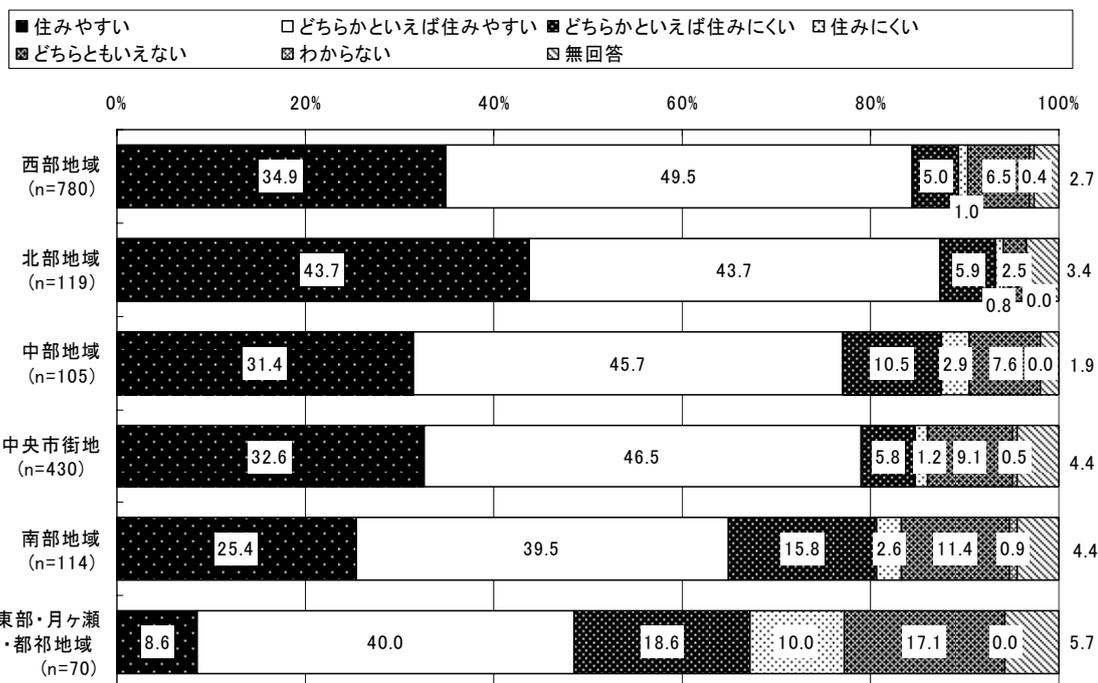


図3.1.2-2 年齢別 住みやすさ



年齢別では、30～39歳で「住みやすい」が一番低い。30～39歳以降、年齢とともに、「住みやすい」は高くなっている。(図 3. 1. 2-2)

図3.1.2-3 地域別 住みやすさ



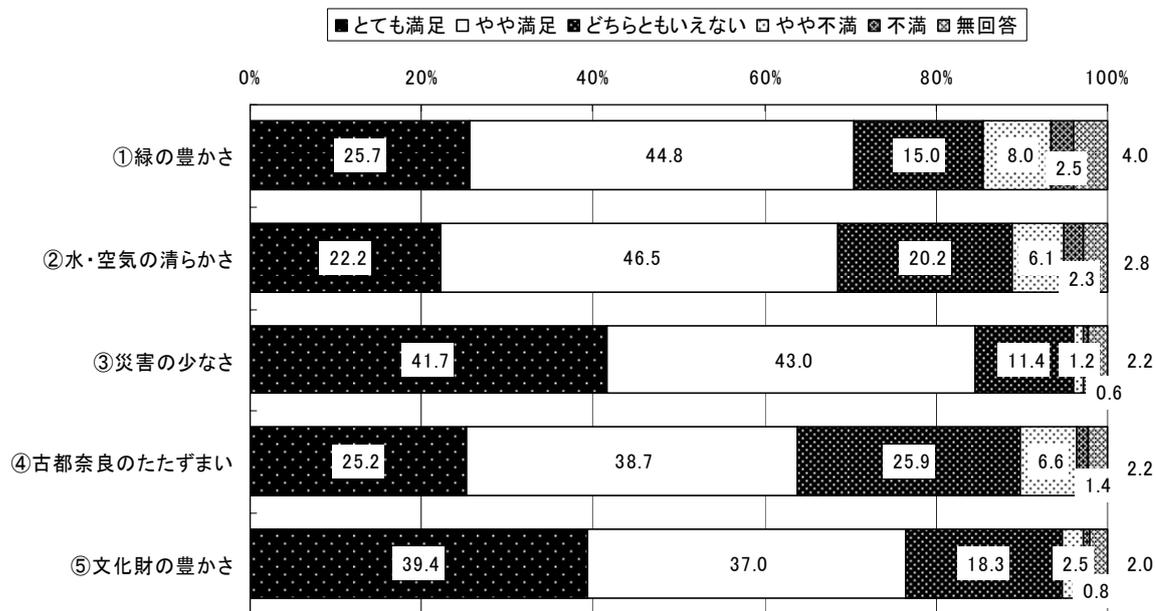
地域別にみると、北部地域で「住みやすい」が4割を超えている。一方、南部地域、東部・月ヶ瀬・都祁地域で「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計が低く、特に東部・月ヶ瀬・都祁地域では「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」の合計が3割近い。(図 3. 1. 2-3)

3) 居住地域における満足度・重要度

問3 現在、お住まいの地域における満足度・重要度について、次の項目ごとにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

満足度(1) 自然・歴史

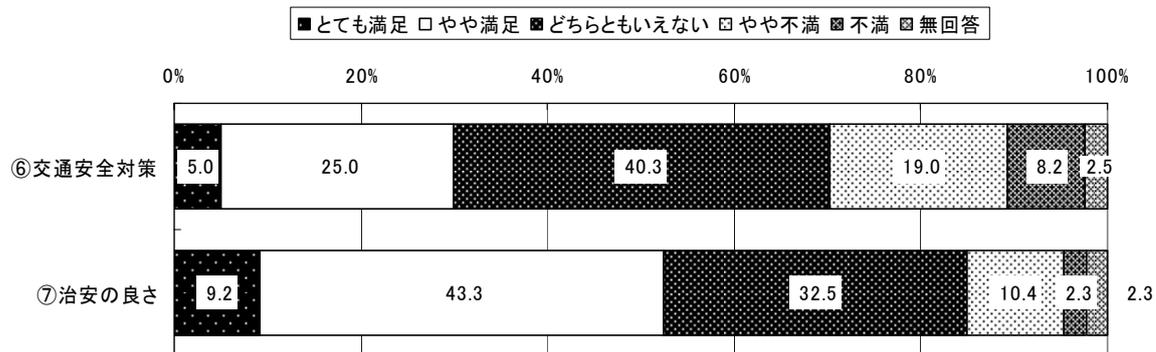
図3.1.3.s1 居住地域における自然・歴史に関する満足度【n=1,810】



居住地域における自然・歴史に関する満足度について、『災害の少なさ』と『文化財の豊かさ』は、「とても満足」と「やや満足」の合計が8割となっている。また、『緑の豊かさ』と『水・空気の清らかさ』では7割前後、『古都奈良のたたずまい』では6割となっている。(図 3. 1. 3. s1)

満足度(2) 安全

図3.1.3.s2 居住地域における安全に関する満足度【n=1,810】

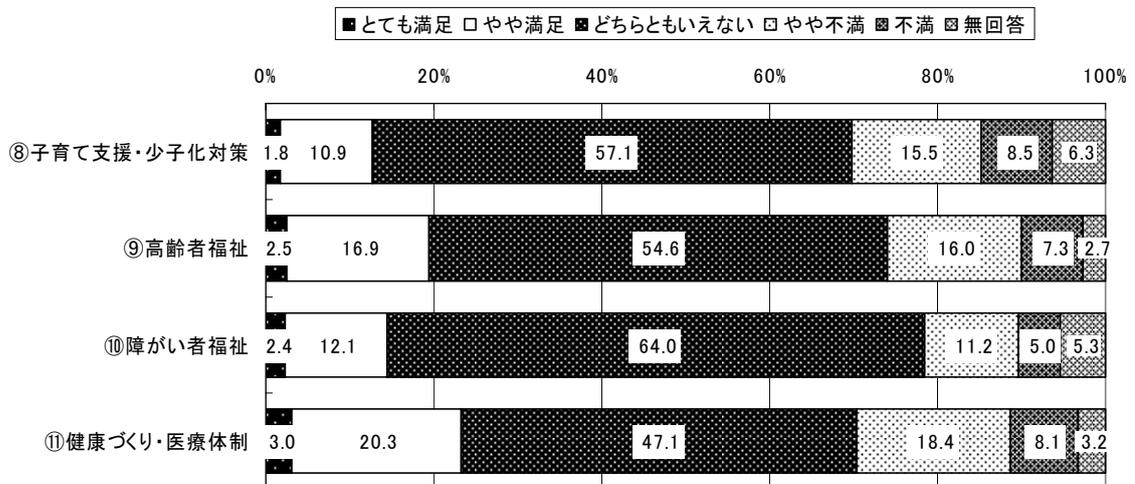


居住地域における安全に関する満足度について、『治安の良さ』は、「とても満足」と「やや満足」の合計が5割を超えている。

一方、『交通安全対策』では、「とても満足」と「満足」の合計と「やや不満」と「不満」の合計がともに3割前後となっている。(図 3. 1. 3. s2)

満足度(3) 保健・福祉

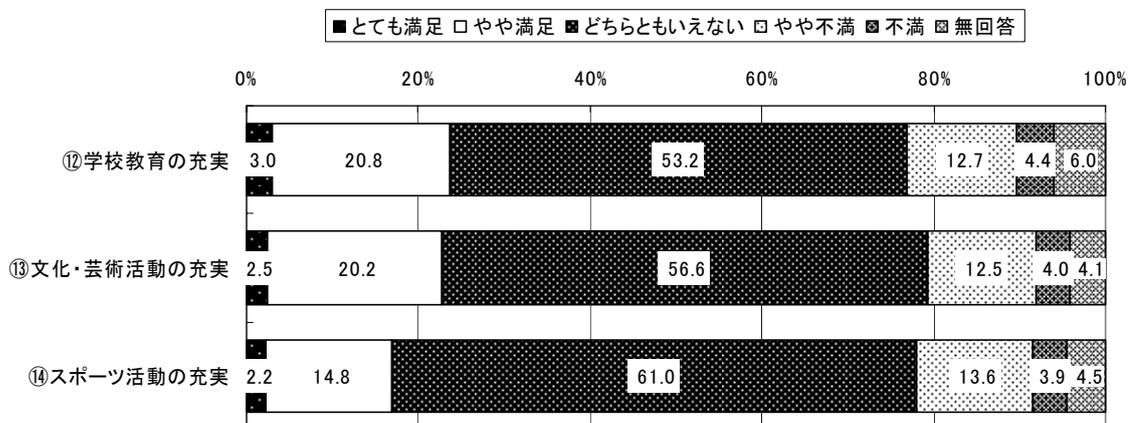
図3.1.3.s3 居住地域における保健・福祉に関する満足度【n=1,810】



居住地域における保健・福祉に関する満足度について、『高齢者福祉』と『健康づくり・医療体制』は「とても満足」と「やや満足」の合計が2割前後、『子育て支援・少子化対策』と『障がい者福祉』は1割である。すべての項目で、満足度より不満度がやや上回っている。なかでも『子育て支援・少子化対策』は満足度に比べ不満度が2倍と高い。(図 3. 1. 3. s3)

満足度(4) 教育・文化

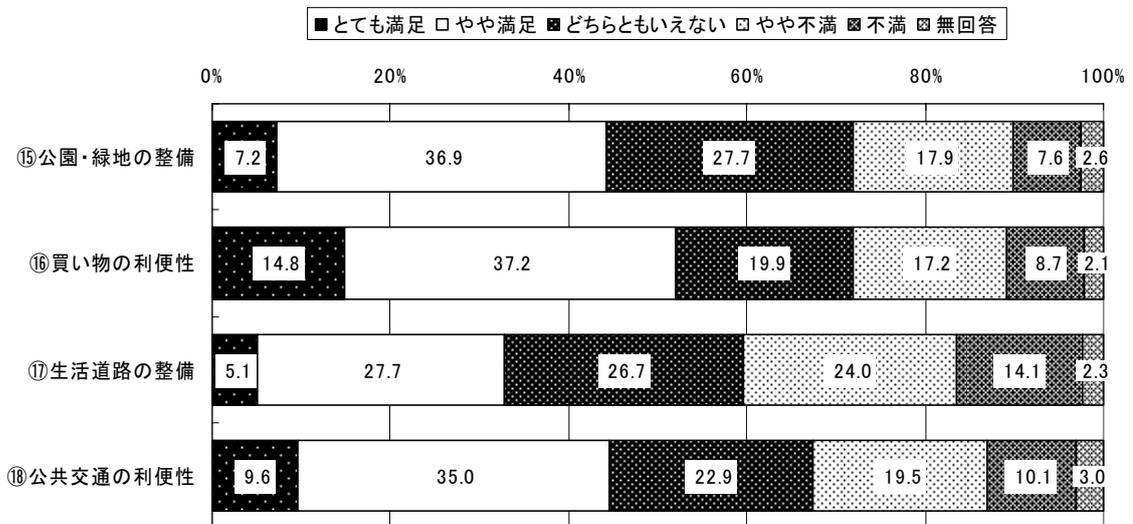
図3.1.3.s4 居住地域における教育・文化に関する満足度【n=1,810】



居住地域における教育・文化に関する満足度について、『学校教育の充実』、『文化・芸術活動の充実』、『スポーツ活動の充実』のいずれも「とても満足」と「やや満足」の合計が2割前後である。『学校教育の充実』と『文化・芸術活動の充実』は、満足度が不満度を上回っている。(図 3. 1. 3. s4)

満足度(5) 都市環境

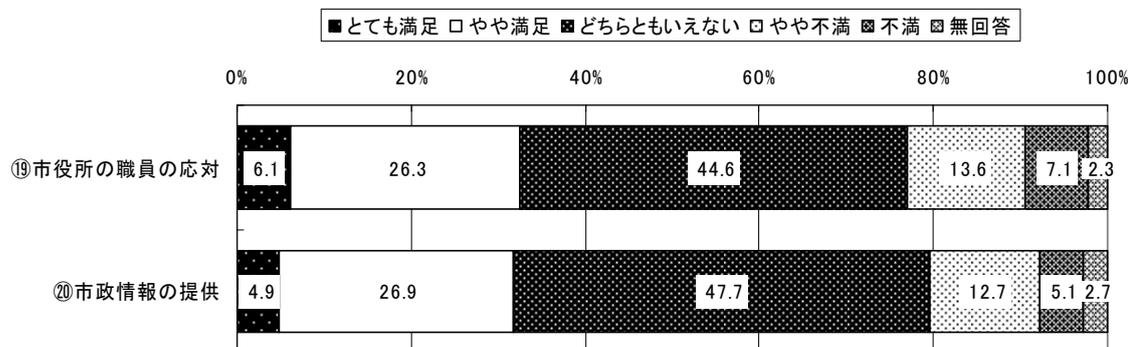
図3.1.3.s5 居住地域における都市環境に関する満足度【n=1,810】



居住地域における都市環境に関する満足度について、『買い物の利便性』は「とても満足」と「やや満足」の合計が5割を超えている。『公園・緑地の整備』と『公共交通の利便性』は4割、『生活道路の整備』は3割である。一方、『生活道路の整備』は、「やや不満」と「不満」の合計が4割近い。『公園・緑地の整備』、『買い物の利便性』、『公共交通の利便性』は3割である。(図 3. 1. 3. s5)

満足度(6) 市政

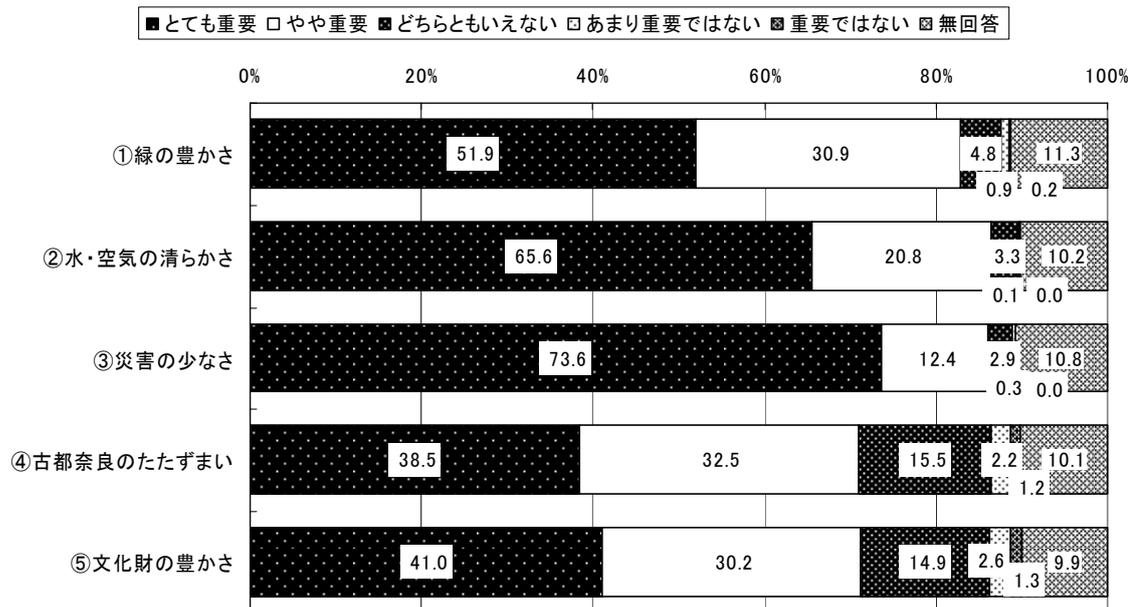
図3.1.3.s6 居住地域における市政に関する満足度【n=1,810】



居住地域における市政に関する満足度について、『市役所の職員の応対』と『市政情報の提供』は「とても満足」と「やや満足」の合計が3割である。一方、「やや不満」と「不満」の合計は2割前後である。(図 3. 1. 3. s6)

重要度(1) 自然・歴史

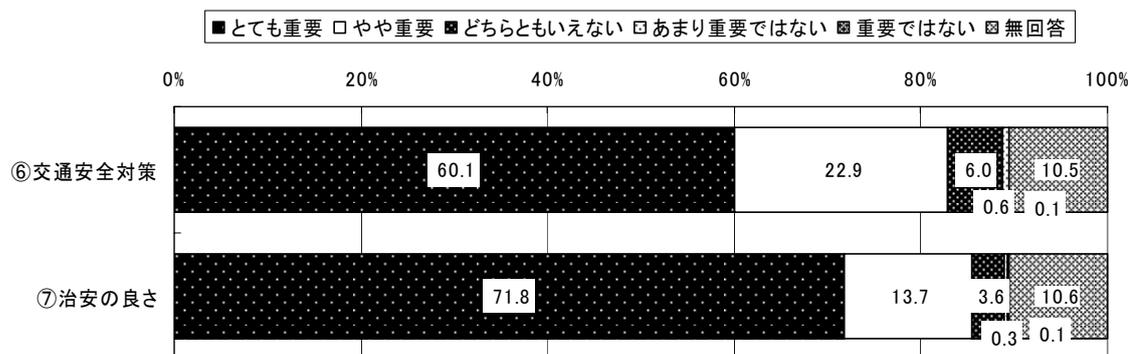
図3.1.3.p1 居住地域における自然・歴史に関する重要度【n=1,810】



居住地域における自然・歴史に関する重要度について、『緑の豊かさ』、『水・空気の清らかさ』、『災害の少なさ』は、「とても重要」と「やや重要」の合計が8割を超えている。また、『古都奈良のたたずまい』と『文化財の豊かさ』では7割となっている。(図 3. 1. 3. p1)

重要度(2) 安全

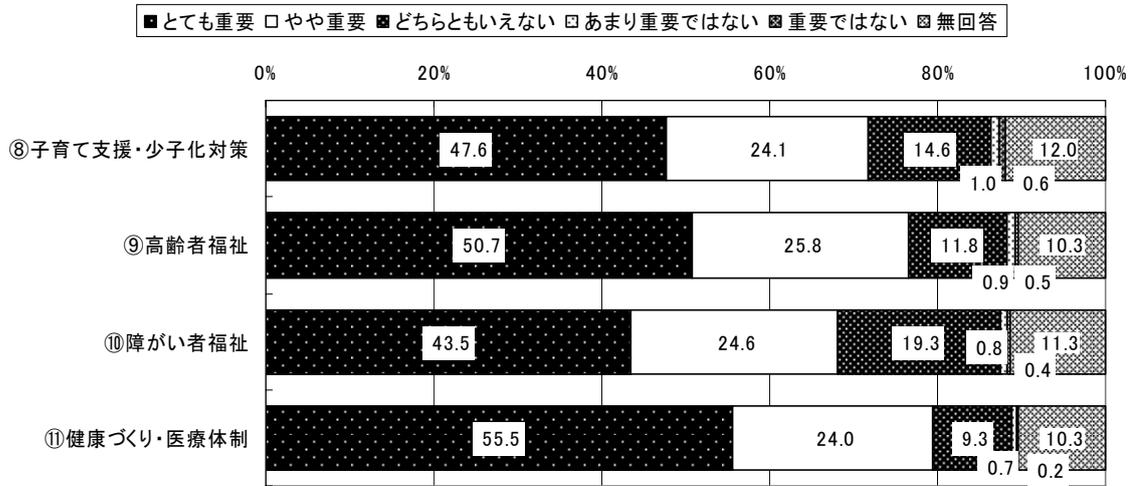
図3.1.3.p2 居住地域における安全に関する重要度【n=1,810】



居住地域における安全に関する重要度について、『交通安全対策』と『治安の良さ』は、「とても重要」と「やや重要」の合計が8割を超えている。(図 3. 1. 3. p2)

重要度(3) 保健・福祉

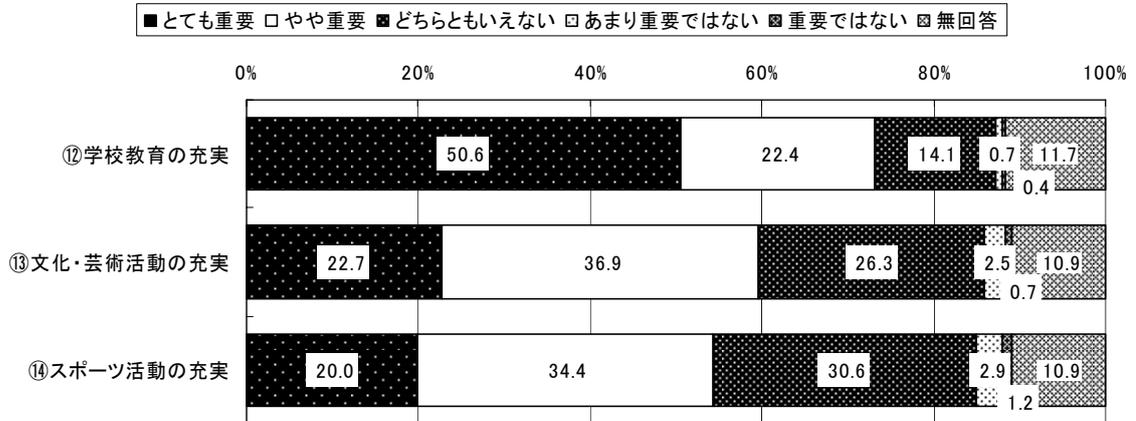
図3.1.3.p3 居住地域における保健・福祉に関する重要度【n=1,810】



居住地域における保健・福祉に関する重要度について、『高齢者福祉』と『健康づくり・医療体制』は「とても重要」と「やや重要」の合計が8割近い。『子育て支援・少子化対策』と『障がい者福祉』は7割である。(図 3. 1. 3. p3)

重要度(4) 教育・文化

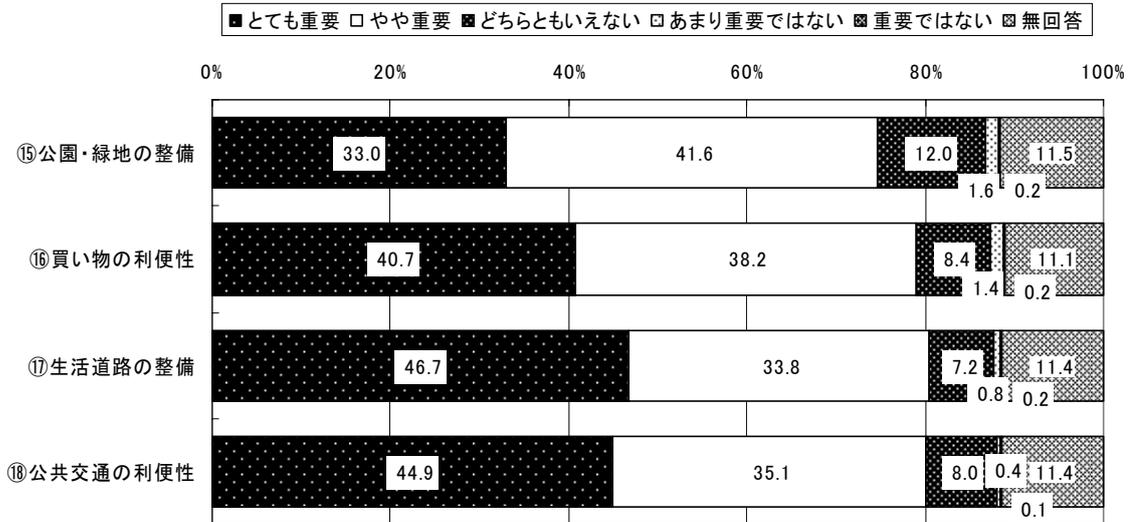
図3.1.3.p4 居住地域における教育・文化に関する重要度【n=1,810】



居住地域における教育・文化に関する重要度について、『学校教育の充実』は7割、『文化・芸術活動の充実』は6割、『スポーツ活動の充実』は5割である。(図 3. 1. 3. p4)

重要度(5) 都市環境

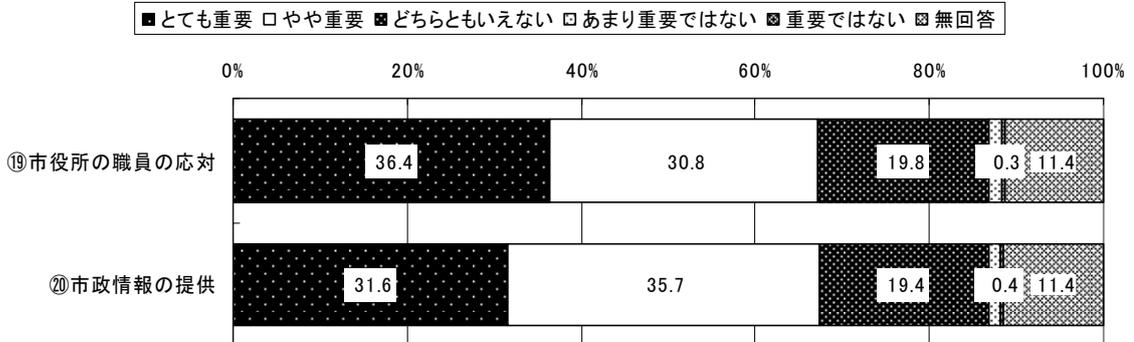
図3.1.3.p5 居住地域における都市環境に関する重要度【n=1,810】



居住地域における都市環境に関する重要度について、『買い物の利便性』、『生活道路の整備』、『公共交通の利便性』は「とても重要」と「やや重要」の合計が8割前後である。また、『公園・緑地の整備』は7割である。(図 3. 1. 3. p5)

重要度(6) 市政

図3.1.3.p6 居住地域における市政に関する重要度【n=1,810】

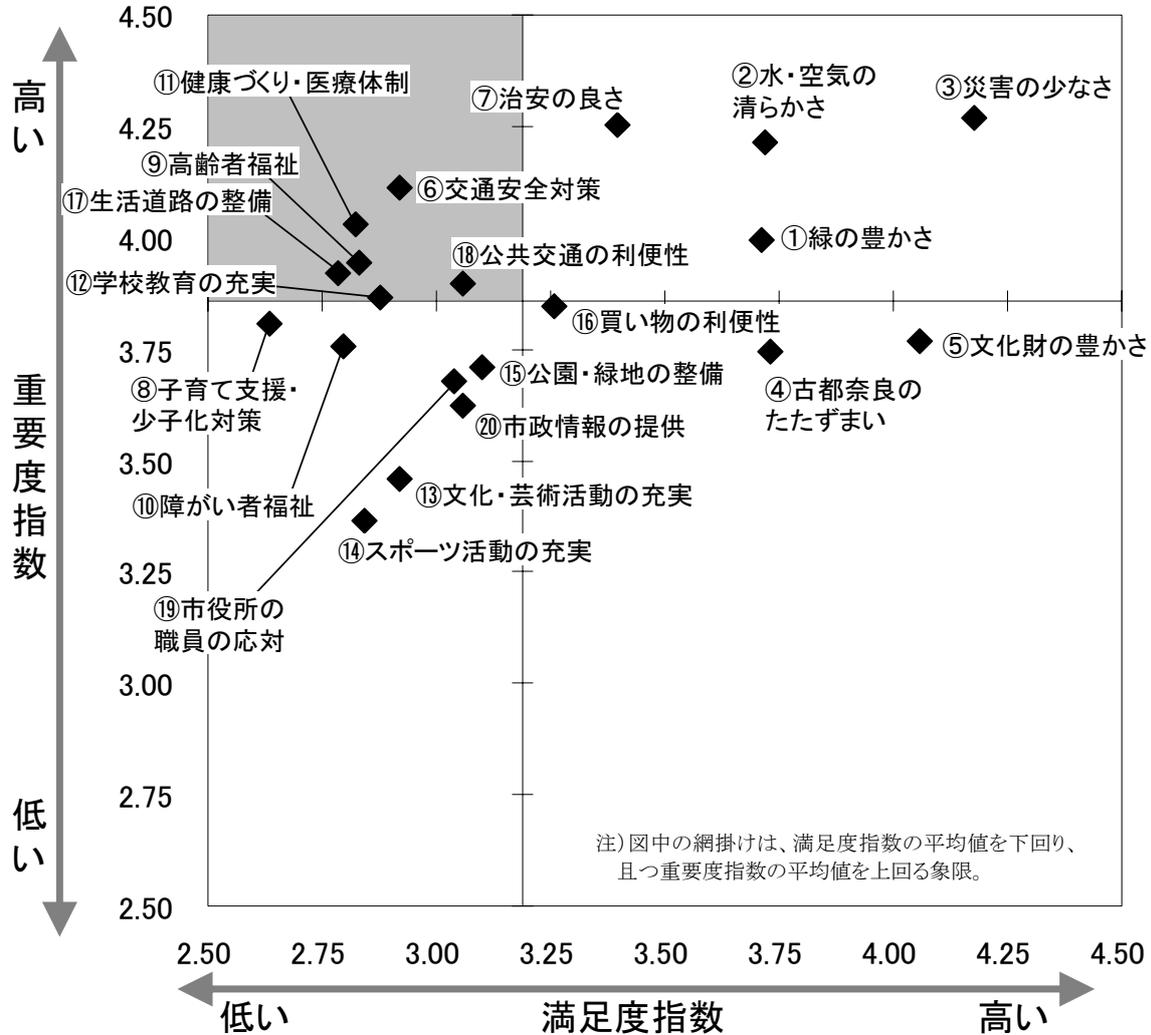


居住地域における市政に関する重要度について、『市役所の職員の応対』と『市政情報の提供』は「とても重要」と「やや重要」の合計が7割である。(図 3. 1. 3. p6)

■満足度と重要度の関係分析

奈良市の環境に関する各項目の満足度指数※1と重要度指数※2を用いて、満足度と重要度の関係を示す散布図を作成し、項目相互の位置関係を示すことで、特性の把握を行った。

満足度指数が平均値 3.19 を下回り、重要度指数が平均値 3.86 を上回る象限に該当する項目が「今後、積極的に対応を図るべき取り組み」になると考える。



奈良市の環境		満足度指数	重要度指数
自然・歴史	①緑の豊かさ	3.71	4.00
	②水・空気の清らかさ	3.72	4.21
	③災害の少なさ	4.18	4.27
	④古都奈良のたたずまい	3.73	3.75
	⑤文化財の豊かさ	4.06	3.77
安全	⑥交通安全対策	2.92	4.11
	⑦治安の良さ	3.40	4.25
保健・福祉	⑧子育て支援・少子化対策	2.63	3.81
	⑨高齢者福祉	2.83	3.94
	⑩障がい者福祉	2.80	3.76
	⑪健康づくり・医療体制	2.82	4.03
教育・文化	⑫学校教育の充実	2.88	3.87
	⑬文化・芸術活動の充実	2.92	3.46
	⑭スポーツ活動の充実	2.84	3.36
都市環境	⑮公園・緑地の整備	3.10	3.71
	⑯買い物の利便性	3.26	3.85
	⑰生活道路の整備	2.79	3.92
市政	⑱公共交通の利便性	3.06	3.90
	⑲市役所の職員の対応	3.04	3.68
	⑳市政情報の提供	3.06	3.62
平均値(点)		3.19	3.86

注) 表中の網掛けは、満足度指数の平均値を下回る値、または、重要度指数の平均値を上回る値。

※1 満足度指数: アンケート回答者の評価を得点化し、加重平均して算出した値。

満足度指数	点数
とても満足	5点
やや満足	4点
どちらともいえない	3点
やや不満	2点
不満	1点

※2 重要度指数: アンケート回答者の評価を得点化し、加重平均して算出した値。

重要度指数	点数
とても重要	5点
やや重要	4点
どちらともいえない	3点
あまり重要ではない	2点
重要ではない	1点

次に、居住地域別での傾向をみるために、「満足度」と「重要度」の選択肢ごとに、下記の得点を設定し、項目ごとに全回答（無回答を除く）の平均点を得点として算出した。従って、「満足度」、「重要度」が高いほど高得点となる。

満足度		重要度	
とても満足	100点	とても重要	100点
やや満足	75点	やや重要	75点
どちらともいえない	50点	どちらともいえない	50点
やや不満	25点	あまり重要ではない	25点
不満	0点	重要ではない	0点

■地域別の満足度

件数(「不明」を除く)	1810	780	119	105	430	114	70
項目	全体	西部地域	北部地域	中部地域	中央市街地	南部地域	東部・月ヶ瀬・都祁地域
①緑の豊かさ	68.8	67.0	81.1	65.4	67.3	71.5	88.3
②水・空気の清らかさ	68.7	69.0	66.2	70.9	66.2	73.6	81.8
③災害の少なさ	80.0	80.6	84.3	81.2	80.0	81.3	74.3
④古都奈良のたたずまい	68.8	69.1	67.5	67.3	71.0	69.8	64.3
⑤文化財の豊かさ	76.9	76.6	76.1	77.2	80.8	75.0	69.6
⑥交通安全対策	48.7	48.9	59.9	47.8	47.4	46.7	50.4
⑦治安の良さ	60.5	62.6	63.7	60.2	58.4	58.1	65.4
⑧子育て支援・少子化対策	42.4	43.0	47.5	42.9	41.4	41.1	42.2
⑨高齢者福祉	46.5	46.0	48.1	48.4	47.0	47.2	50.1
⑩障がい者福祉	46.3	46.7	48.9	46.6	46.5	46.9	50.0
⑪健康づくり・医療体制	46.4	46.3	48.7	46.2	46.3	48.4	46.5
⑫学校教育の充実	48.4	49.6	54.4	44.5	46.9	45.7	54.7
⑬文化・芸術活動の充実	49.1	48.6	54.9	48.4	49.4	49.4	50.7
⑭スポーツ活動の充実	47.2	46.6	54.6	47.4	47.2	46.5	51.1
⑮公園・緑地の整備	53.2	53.3	63.6	50.0	54.0	50.8	46.1
⑯買い物の利便性	57.0	58.6	61.6	64.5	59.3	54.9	22.5
⑰生活道路の整備	45.2	45.8	61.7	39.7	45.3	39.7	39.7
⑱公共交通の利便性	52.2	54.5	54.7	53.1	58.1	38.3	21.4
⑲市役所の職員の応対	51.5	52.5	54.0	46.7	52.3	47.3	50.7
⑳市政情報の提供	52.1	52.6	57.0	51.2	52.3	50.5	53.2
平均得点	55.5	55.9	60.4	55.0	55.9	54.1	53.6

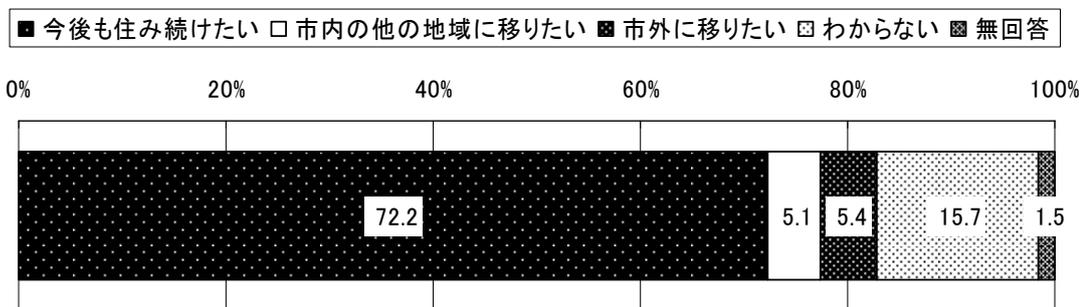
■地域別の重要度

件数(「不明」を除く)	1810	780	119	105	430	114	70
項目	全体	西部地域	北部地域	中部地域	中央市街地	南部地域	東部・月ヶ瀬・都祁地域
①緑の豊かさ	77.7	79.3	77.9	73.6	78.0	75.7	85.0
②水・空気の清らかさ	82.9	84.8	82.6	80.2	82.2	79.2	85.7
③災害の少なさ	84.4	86.9	84.6	80.5	84.3	79.3	84.6
④古都奈良のたたずまい	71.2	72.5	71.9	66.7	73.5	67.8	71.4
⑤文化財の豊かさ	71.8	72.5	70.8	69.8	75.2	66.9	71.8
⑥交通安全対策	80.4	82.2	79.0	78.2	80.8	76.1	81.1
⑦治安の良さ	84.0	86.0	85.3	80.8	84.0	79.2	84.0
⑧子育て支援・少子化対策	73.2	74.7	73.7	71.3	73.7	67.1	79.3
⑨高齢者福祉	76.2	77.0	78.7	71.7	77.2	74.8	80.4
⑩障がい者福祉	71.8	72.9	71.7	69.9	73.1	68.9	75.4
⑪健康づくり・医療体制	78.3	80.5	77.6	75.9	78.8	73.7	81.0
⑫学校教育の充実	74.6	76.3	74.8	76.0	74.6	69.3	79.3
⑬文化・芸術活動の充実	64.2	65.5	66.7	62.7	64.9	58.4	65.0
⑭スポーツ活動の充実	61.8	63.0	62.6	62.2	61.4	56.5	61.4
⑮公園・緑地の整備	70.6	72.2	71.2	66.4	73.5	66.3	64.3
⑯買い物の利便性	73.9	75.2	76.5	67.4	74.7	69.8	75.7
⑰生活道路の整備	75.9	77.1	75.0	73.9	75.9	71.3	80.0
⑱公共交通の利便性	75.3	76.7	78.6	70.4	75.3	69.1	78.9
⑲市役所の職員の応対	69.8	71.5	68.3	64.8	70.8	64.8	71.8
⑳市政情報の提供	68.4	69.1	69.3	65.5	70.2	64.1	72.8
平均得点	74.3	75.8	74.8	71.4	75.1	69.9	76.4

4) 居留意向

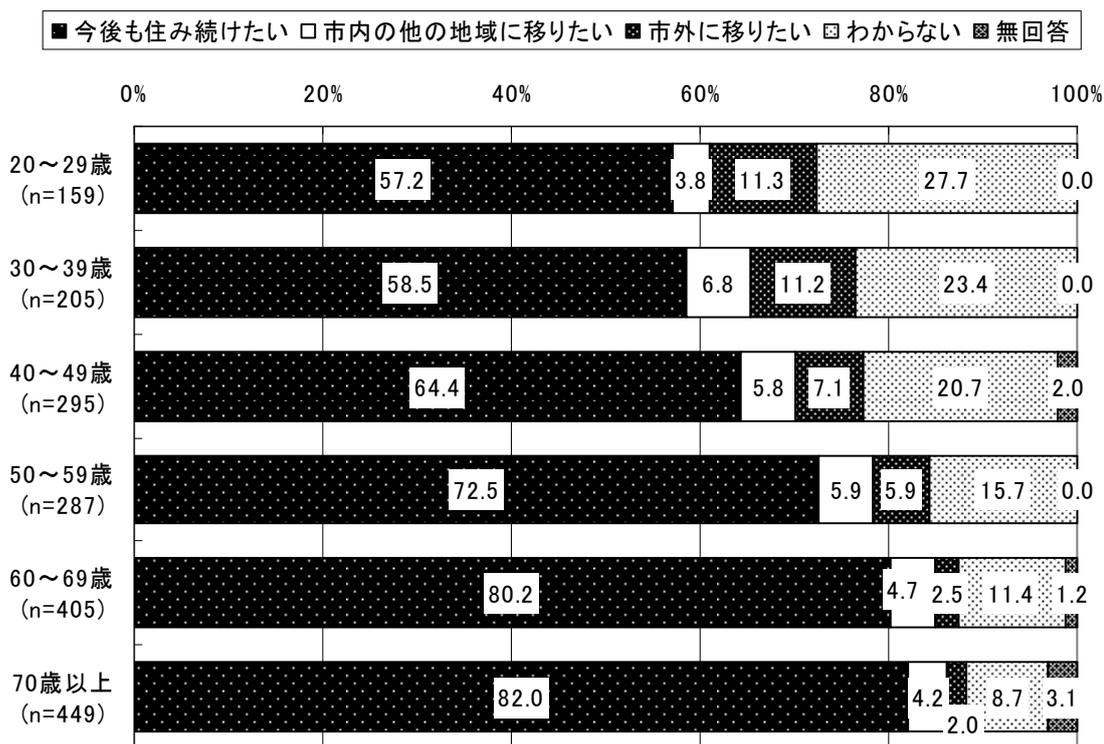
問4 あなたは、これからも奈良市に住み続けたいと思いますか。(あてはまるもの一つに○)

図3.1.4 居留意向【n=1,810】



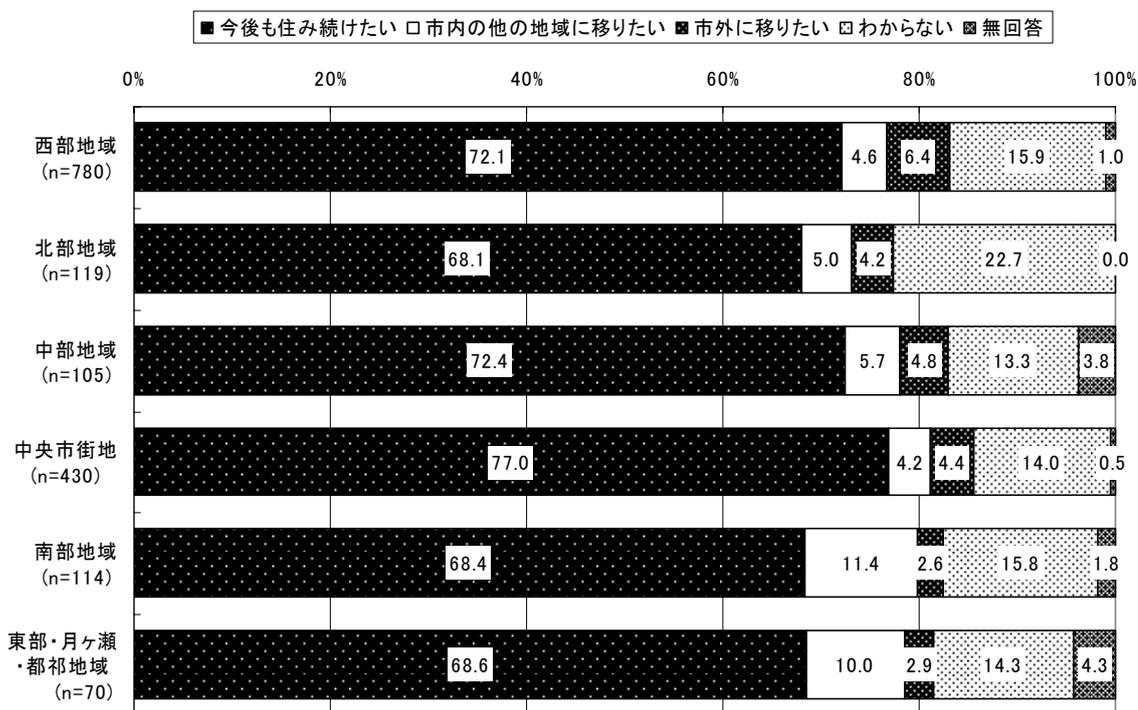
居留意向について、「今後も住み続けたい」が72.2%と割合が高い。一方で、「市内の他の地域に移りたい」と「市外に移りたい」の合計は、10.5%となっている。(図3.1.4)

図3.1.4-1 年齢別 居留意向



年齢別では、年齢が高くなると、「今後も住み続けたい」が高くなっている。(図3.1.4-1)

図3.1.4-2 地域別 居住意向



地域別にみると、中央市街地で「今後も住み続けたい」が8割に近く最も高い。南部地域と東部・月ヶ瀬・都祁地域で「市内の他の地域に移りたい」が1割と他地域に比べ若干高い。

(図 3. 1. 4-2)

問5 問4のご回答について、その理由をご自由にお書きください。

奈良市に住み続けたいかの意向（問4）について、1,276人（70.5%）の方から回答があった。分類すると次のとおりであり、今後も住み続けたい理由の中では、「住みやすいから」が最も多い。また、市内の他の地域に移りたい理由の中では、「交通が不便だから」が最も多く、市外に移りたい理由の中では、「行政の対応が不満だから」が最も多い。

表 居留意向の理由について(自由回答)

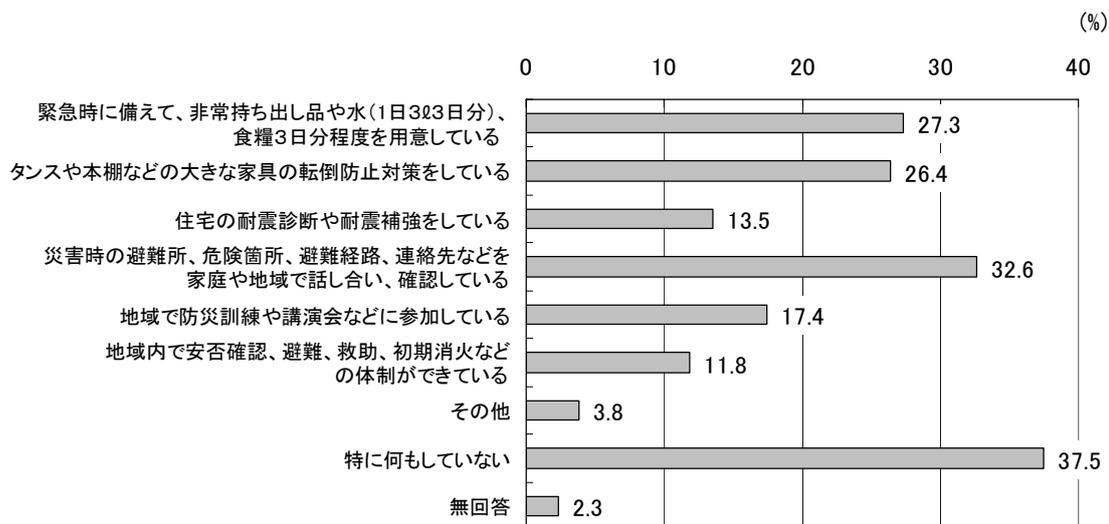
大分類	中分類	回答数	構成比
今後も住み続けたい理由	住みやすいから	208	23.0
	長く住み続けているから	180	19.9
	交通の便が良いから	81	9.0
	愛着があるから	65	7.2
	災害が少ないから	59	6.5
	緑などの自然が豊かだから	50	5.5
	何らかの理由で移れない	44	4.9
	自宅・職場があり移れない	41	4.5
	まちの雰囲気が良いから	40	4.4
	歴史や文化が豊かだから	37	4.1
	空気がきれいだから	18	2.0
	治安が良いから	16	1.8
	人間関係が良いから	14	1.6
	その他	50	5.5
		小計	903
市内の他の地域に移りたい理由	交通が不便だから	28	36.8
	生活環境が不満だから	14	18.4
	道路環境が不満だから	13	17.1
	行政の対応が不満だから	6	7.9
	生活マナーが悪いから	6	7.9
	その他	9	11.8
		小計	76
市外に移りたい理由	行政の対応が不満だから	26	29.9
	交通が不便だから	14	16.1
	都会よりも不便だから	12	13.8
	教育環境が不満だから	12	13.8
	生活マナーが悪いから	6	6.9
	生活環境が不満だから	5	5.7
	道路環境が不満だから	4	4.6
	その他	8	9.2
		小計	87
わからない理由	先のことはわからないから	93	44.3%
	行政の対応が不満だから	38	18.1%
	交通が不便だから	30	14.3%
	教育環境が不満だから	14	6.7%
	都会よりも不便だから	9	4.3%
	道路環境が不満だから	7	3.3%
	生活マナーが悪いから	6	2.9%
	生活環境が不満だから	2	1.0%
	その他	11	5.2%
	小計	210	100.0%
合計		1,276	-

3.2 防災対策について

1) 家庭や地域の防災対策

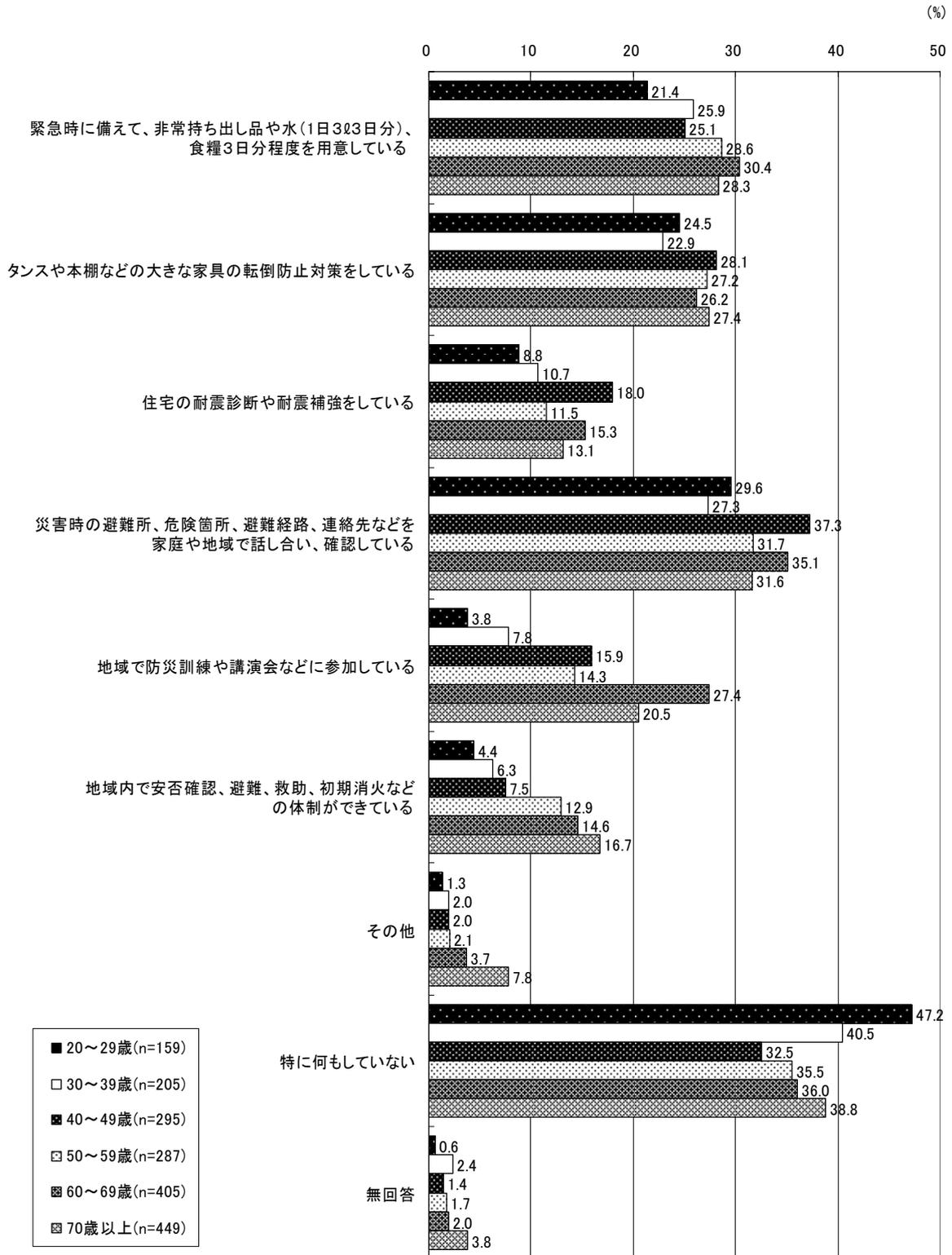
問6 防災対策として、ご家庭や地域で行っておられる取り組みはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

図3.2.1 家庭や地域の防災対策【n=1,810】



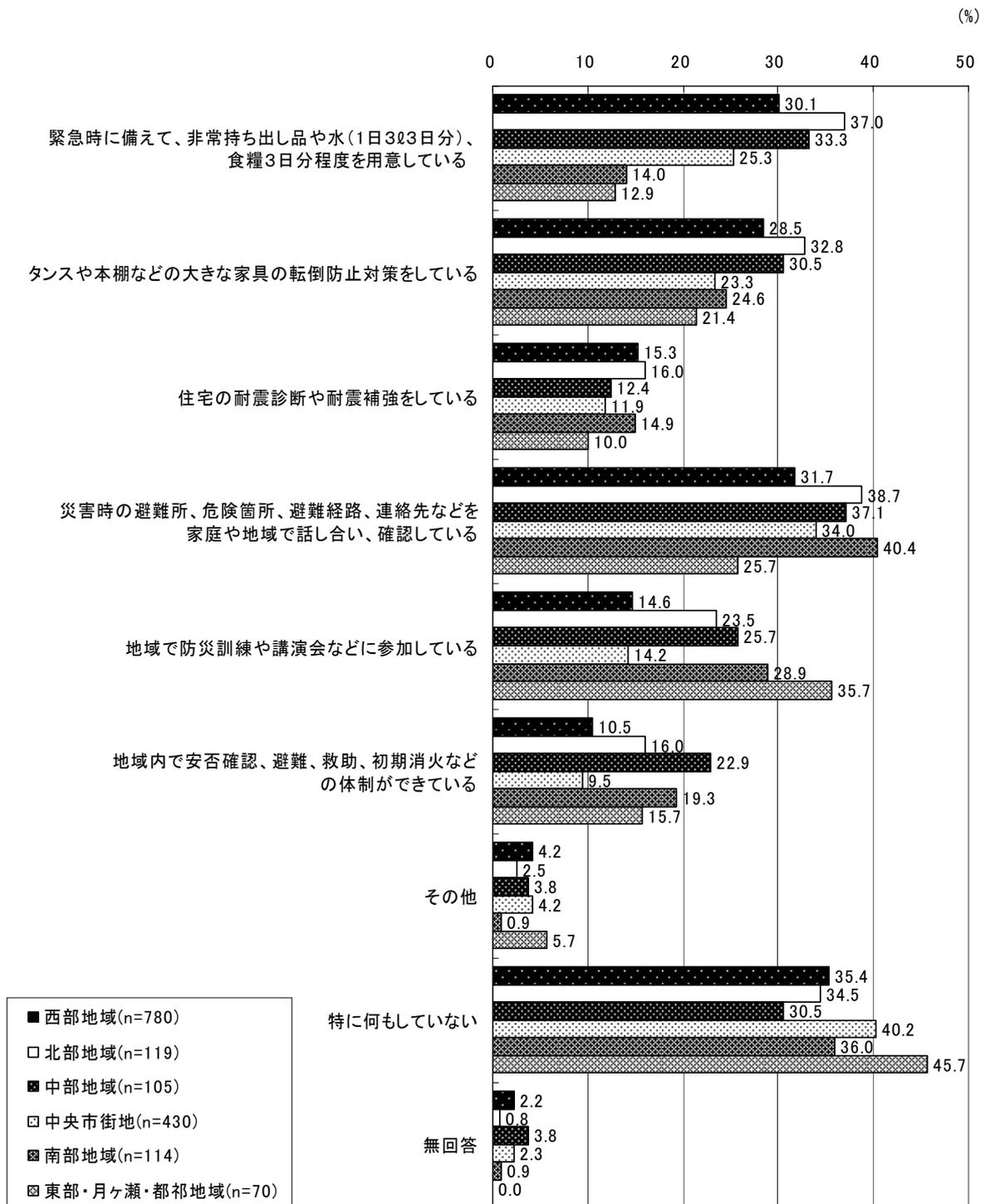
家庭や地域でなんらかの防災対策に取り組んでいる人は 60.2%である。対策の内容は、「災害時の避難所、危険箇所、避難経路、連絡先などを家庭や地域で話し合い、確認している」が 32.6%と最も高い。次いで、「緊急時に備えて、非常持ち出し品や水(1日3ℓ3日分)、食糧3日分程度を用意している」が 27.3%、「タンスや本棚などの大きな家具の転倒防止対策をしている」が 26.4%の順である。一方、「特に何もしていない」は 37.5%となっている。(図 3.2.1)

図3.2.1-1 年齢別 家庭や地域の防災対策



年齢別では、40～49歳でなんらか対策をしている人が7割と高い。一方で、20～29歳で5割と低い。「地域で防災訓練や講演会などに参加している」と「地域内で安否確認、避難、救助、初期消火などの体制ができている」では、年齢によって10%以上差がある。(図3.2.1-1)

図3.2.1-2 地域別 家庭や地域の防災対策

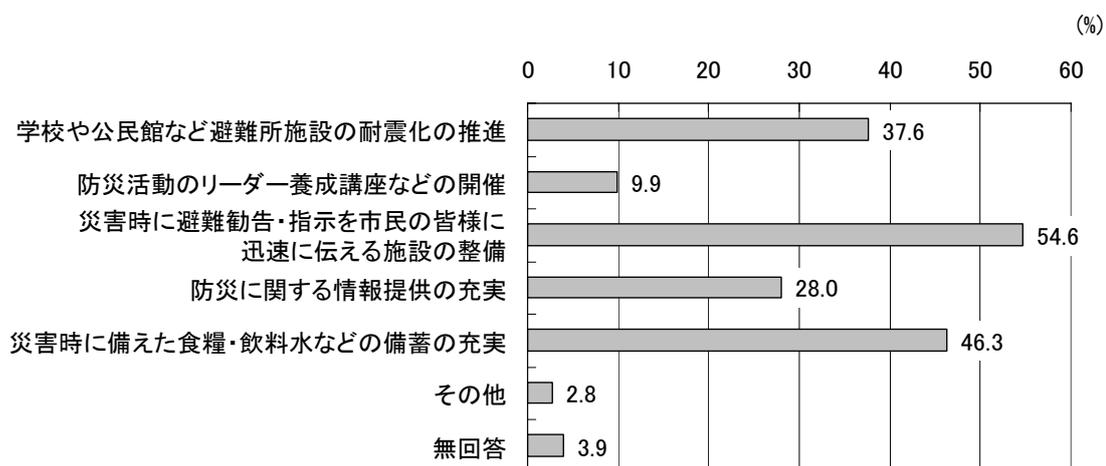


地域別にみると、東部・月ヶ瀬・都祁地域で「特に何もしていない」が5割に近く他地域に比べ若干高い。(図 3.2.1-2)

2) 市が力を入れるべき防災対策

問7 防災対策は、人々が安全・安心に暮らすために、全ての対策が重要ですが、特に、奈良市が力を入れるべき取り組みはどれだと思いますか。
(あてはまるもの2つ以内に○)

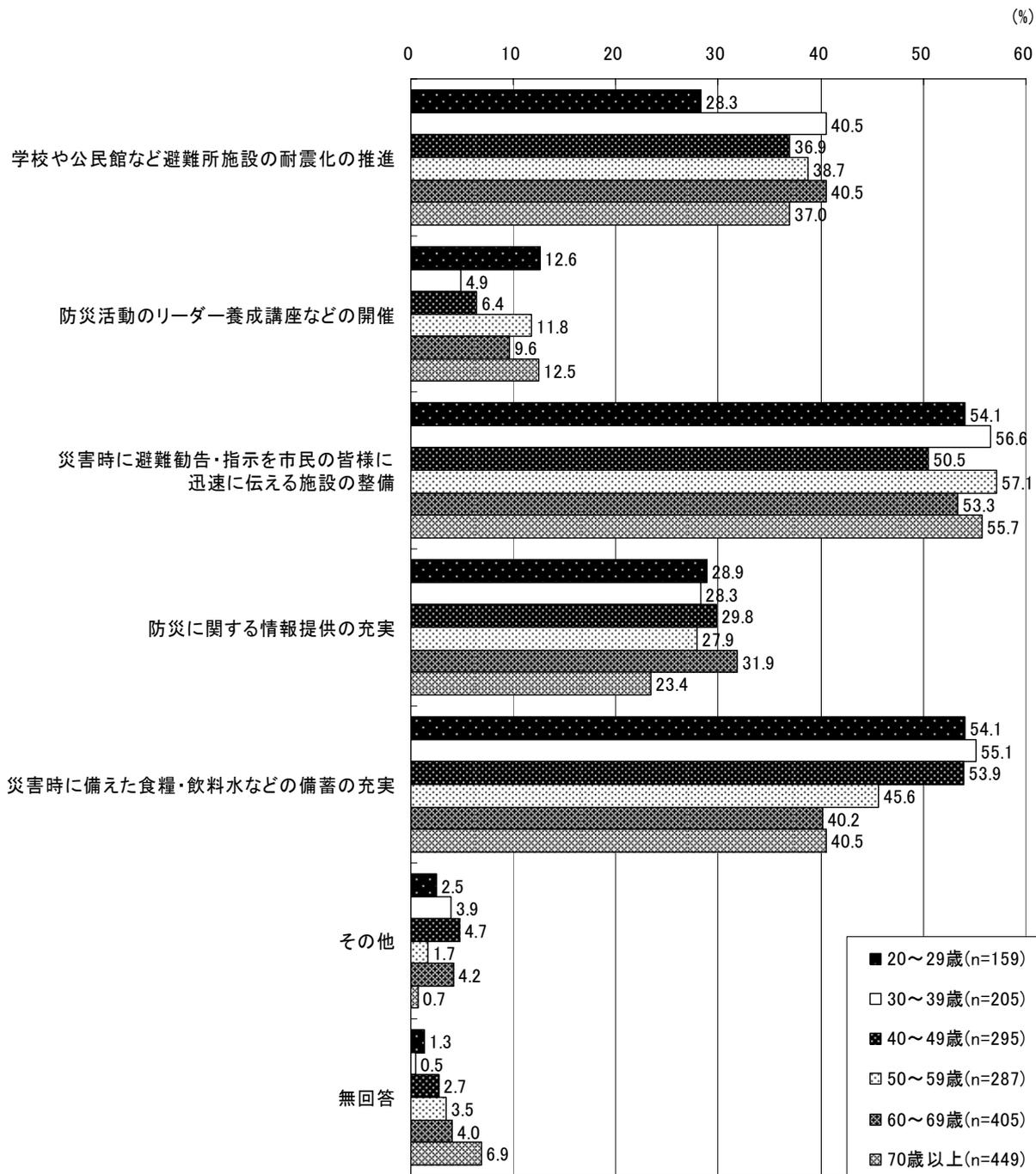
図3.2.2 市が力を入れるべき防災対策【n=1,810】



市が力を入れるべき防災対策について、「災害時に避難勧告・指示を市民の皆様に迅速に伝える施設の整備」が 54.6%と最も高い。次いで、「災害時に備えた食糧・飲料水などの備蓄の充実」が 46.3%、「学校や公民館など避難所施設の耐震化の推進」が 37.6%の順となっている。

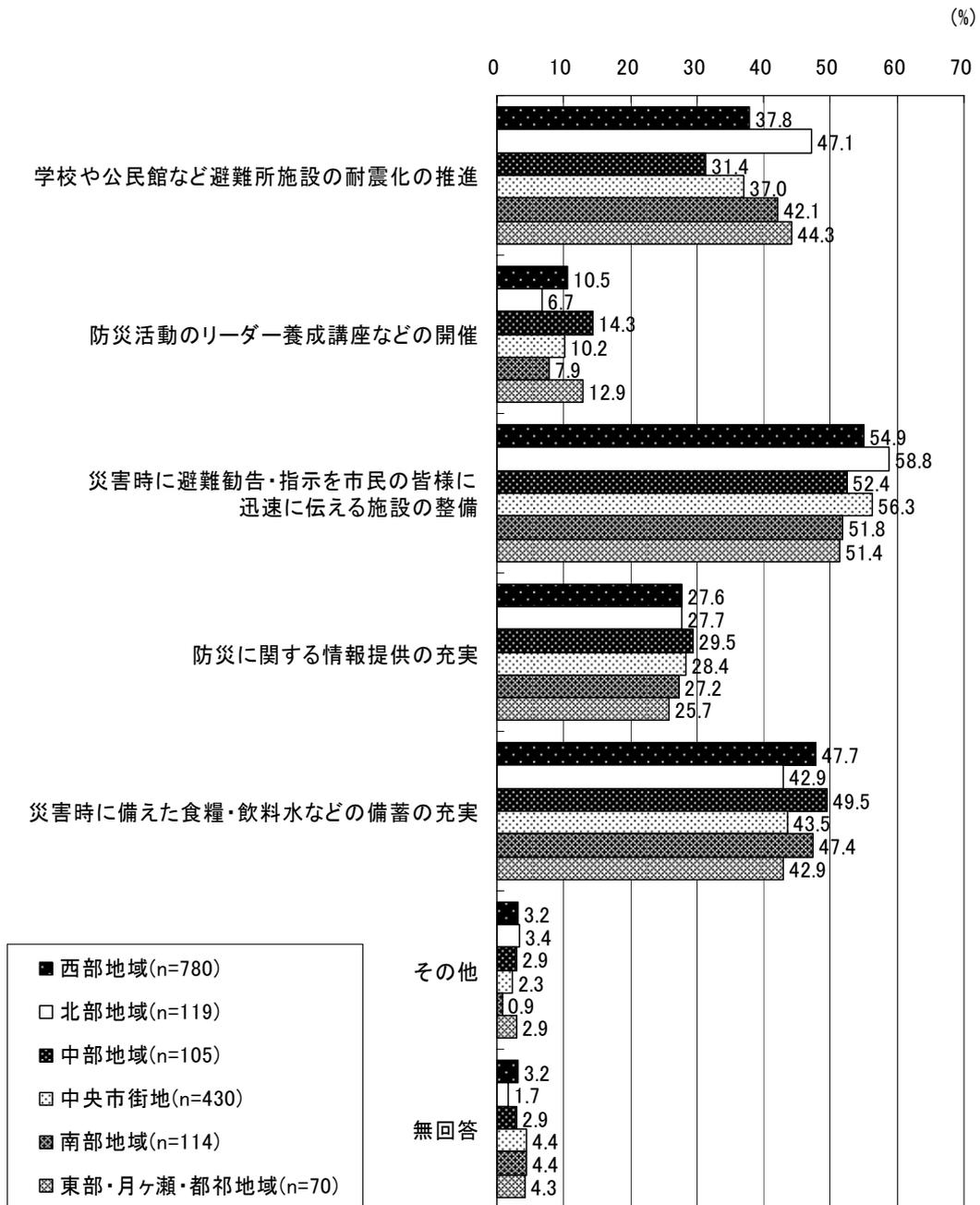
(図 3.2.2)

図3.2.2-1 年齢別 市が力を入れるべき防災対策



年齢別では、20～29歳で「学校や公民館など避難所施設の耐震化の推進」が3割と他の年齢に比べ低い。また、60～69歳と70歳以上で「災害時に備えた食糧・飲料水などの備蓄の充実」が4割と他の年齢に比べ低くなっている。(図3.2.2-1)

図3.2.2-2 地域別 市が力を入れるべき防災対策



地域別にみると、「学校や公民館など避難所施設の耐震化の推進」で、地域によって 10%以上差がある。(図 3.2.2-2)

3) 古い住宅の耐震性の認知度

問8 建築基準法の耐震基準に関する改正が昭和56年6月1日に行われ、それ以前に建てられた住宅（旧耐震基準住宅）は、耐震性が低い可能性があることについてご存知ですか。（あてはまるもの1つに○）

図3.2.3 古い住宅の耐震性の認知度【n=1,810】

旧耐震基準住宅についての認知度は、69.8%である。（図 3.2.3）

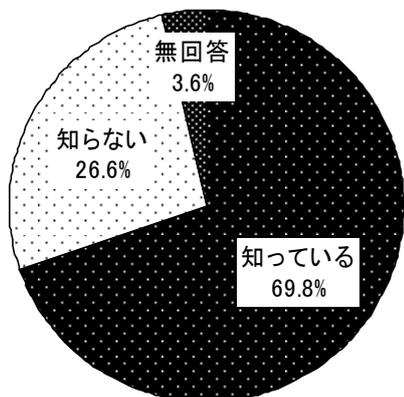
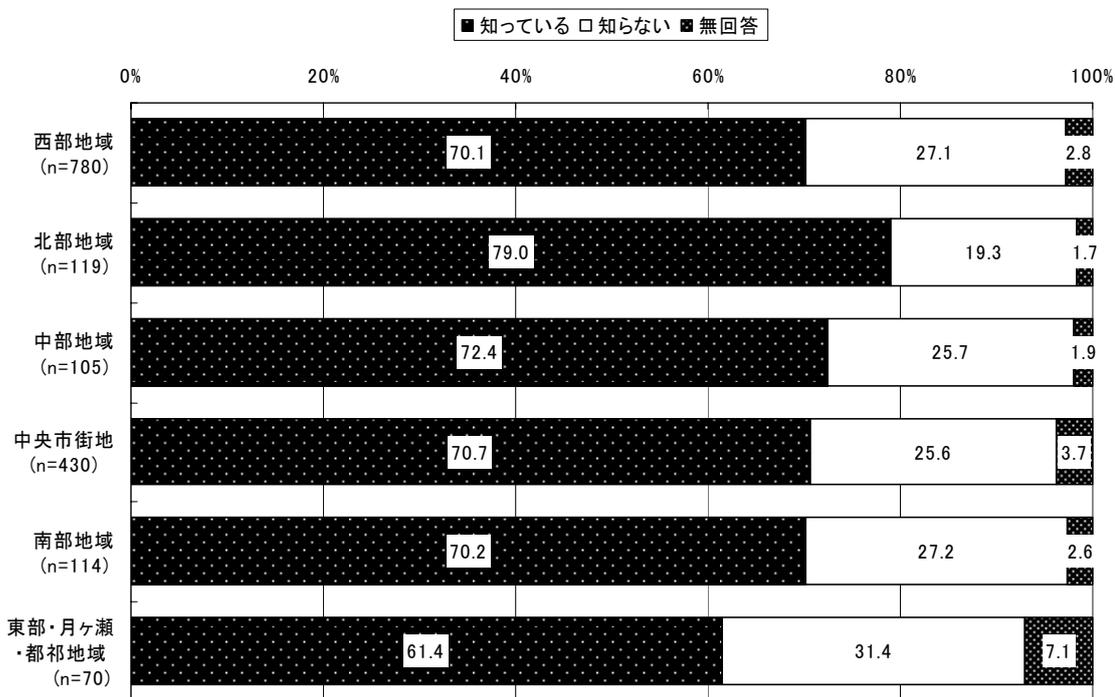


図3.2.3-1 地域別 古い住宅の耐震性の認知度



地域別にみると、北部地域で「知っている」が8割と高く、東部・月ヶ瀬・都祁地域で6割と低い。（図 3.2.3-1）

4) 耐震診断・耐震改修補助事業の認知度

問9 奈良市では耐震診断・耐震改修補助事業を実施していますが、ご存知ですか。(あてはまるもの1つに○)

図3.2.4 耐震診断・耐震改修補助事業の認知度
【n=1,810】

奈良市の耐震診断・耐震改修補助事業についての認知度は、28.6%である。(図 3.2.4)

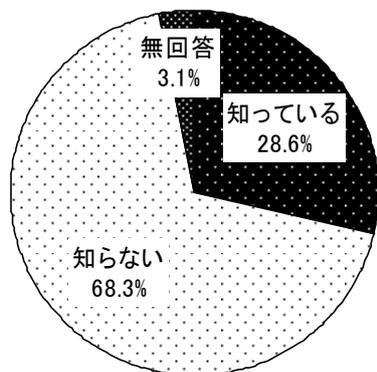
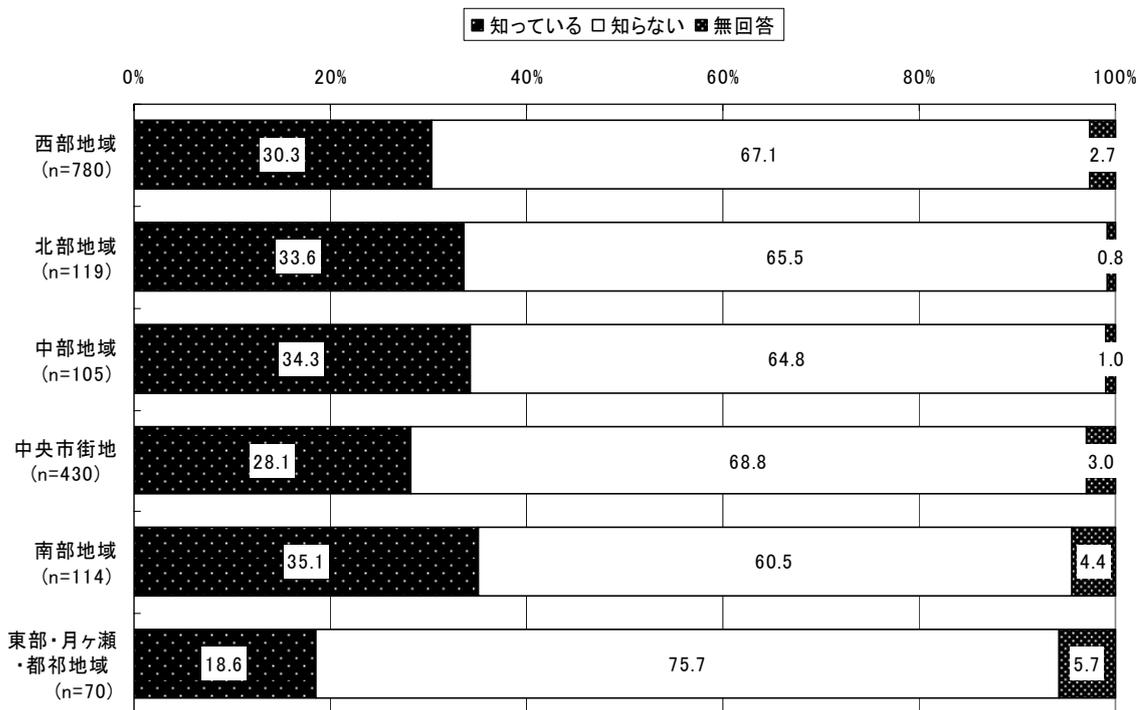


図3.2.4-1 地域別 耐震診断・耐震改修補助事業の認知度

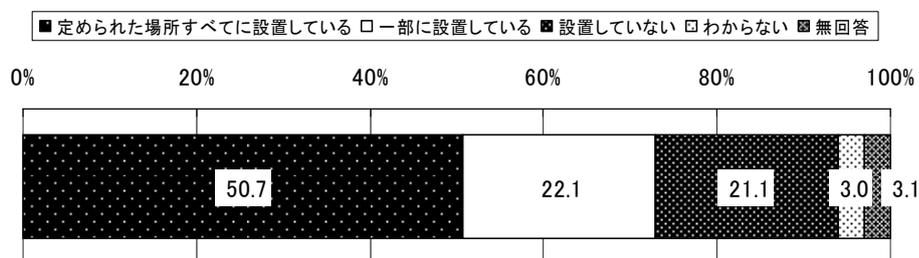


地域別にみると、東部・月ヶ瀬・都祁地域で「知っている」が2割と他の地域に比べ低い。(図 3.2.4-1)

5) 住宅用火災警報器の設置状況

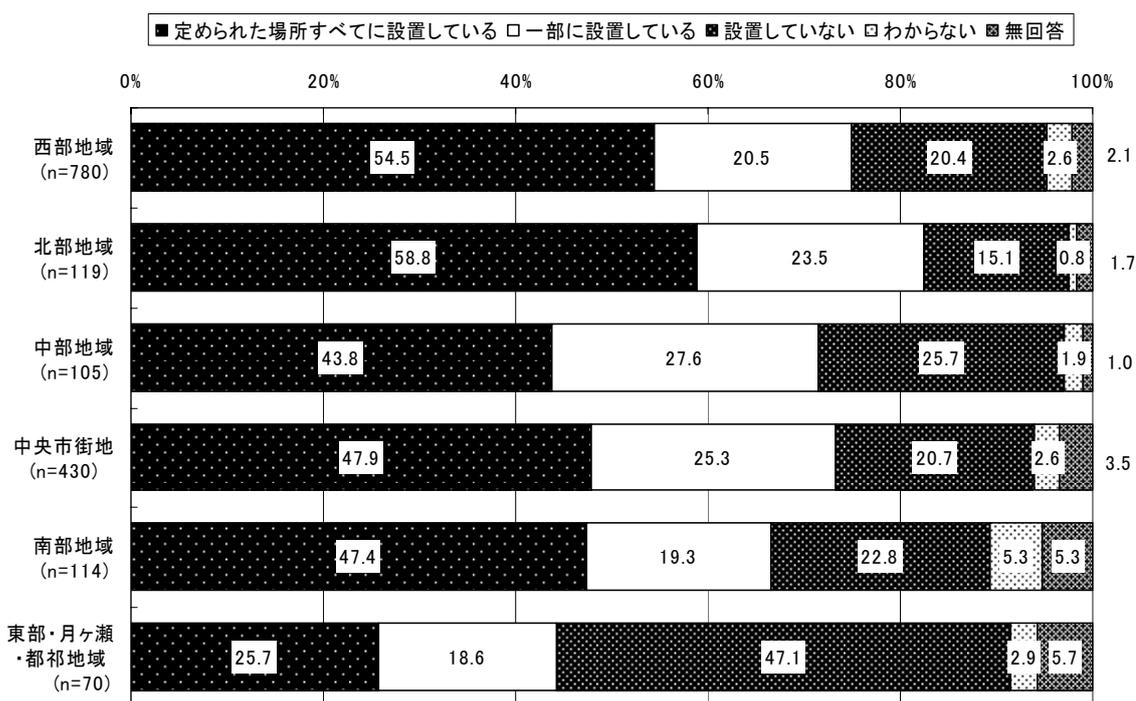
問10 住宅用火災警報器の設置場所は、原則として住宅の各寝室（2階以上に寝室がある場合は、階段の天井部分）に設置することが定められています。あなたのお住まいでは住宅用火災警報器を設置していますか。（あてはまるもの1つに○）

図3.2.5 住宅用火災警報器の設置状況【n=1,810】



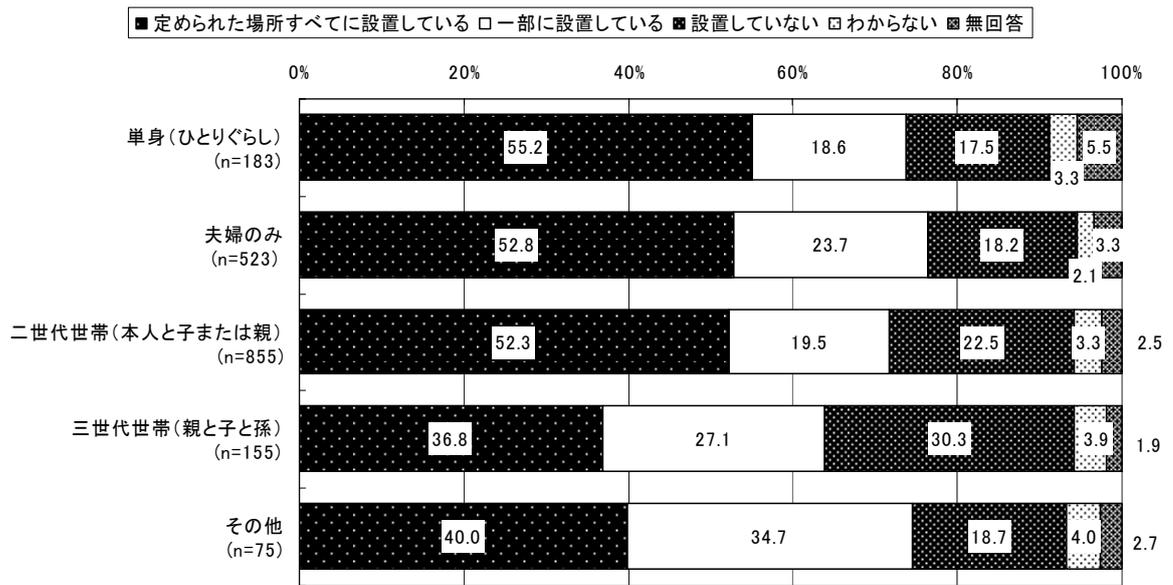
住宅用火災警報器の設置状況について、「定められた場所すべてに設置している」が 50.7% である。「一部に設置している」を含めると 72.8% である。一方、「設置していない」は 21.1% となっている。（図 3.2.5）

図3.2.5-1 地域別 住宅用火災警報器の設置状況



地域別にみると、北部地域で「定められた場所すべてに設置している」と「一部に設置している」の合計が8割を超えており最も高い。一方、東部・月ヶ瀬・都祁地域で4割と低い。（図 3.2.5-1）

図3.2.5-2 家族構成別 住宅用火災警報器の設置状況

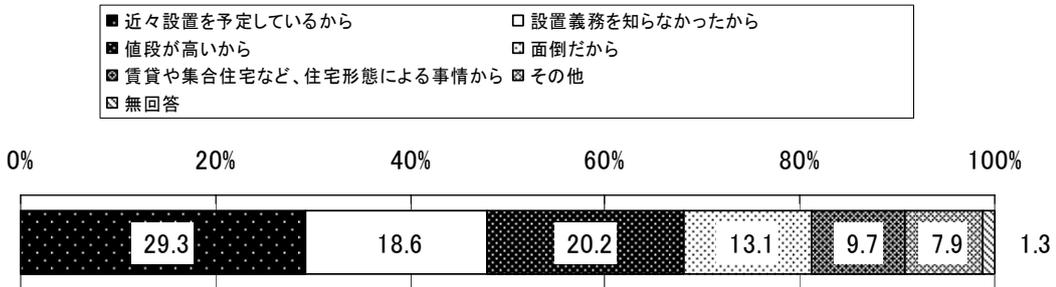


家族構成別にみると、単身、夫婦のみ、二世帯世帯で、「定められた場所すべてに設置している」が5割を超えている。一方、三世帯世帯で、4割程度である。(図 3.2.5-2)

(1) 警報器を設置しない理由

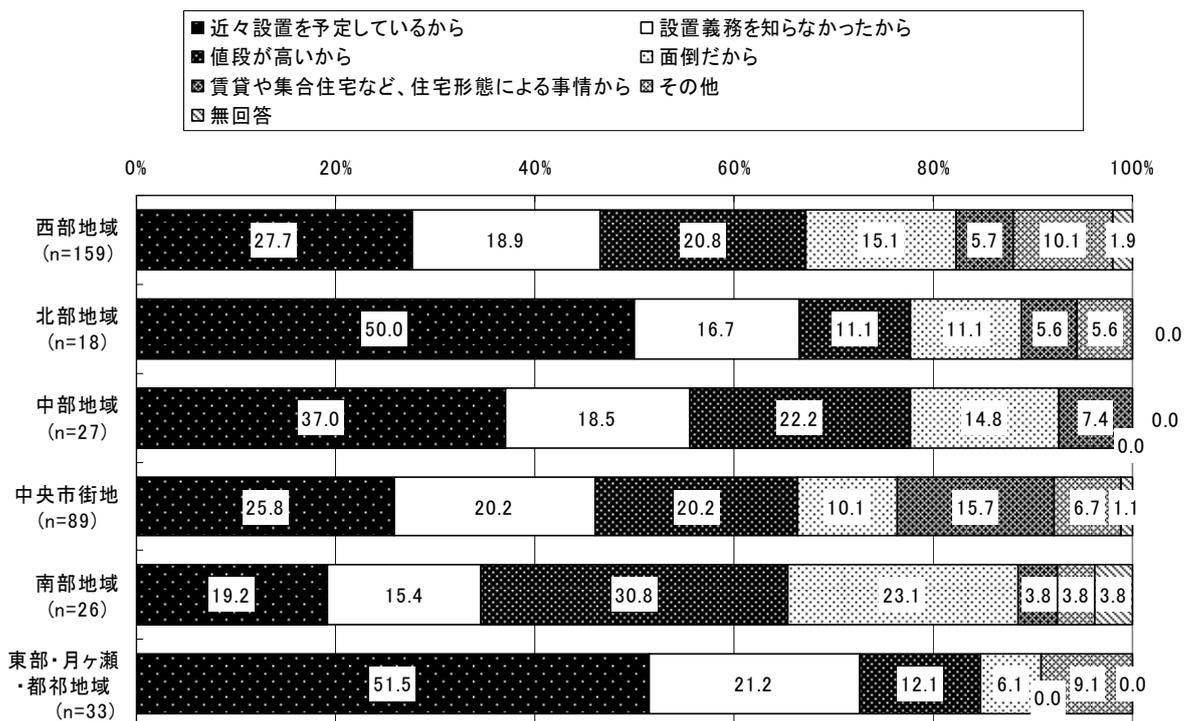
問10-1 問10で「3. 設置していない」を選んだ方にお伺いします。
 設置していない理由はどうしてですか。(あてはまるもの1つに○)

図3.2.5.1 警報器を設置しない理由【n=382】



住宅用火災警報器を設置していないと回答した人に、設置しない理由を尋ねたところ、「近々設置を予定しているから」が29.3%と最も高い。次いで「値段が高いから」が20.2%、「設置義務を知らなかったから」が18.6%の順となっている。(図3.2.5.1)

図3.2.5.1-1 地域別 警報器を設置しない理由



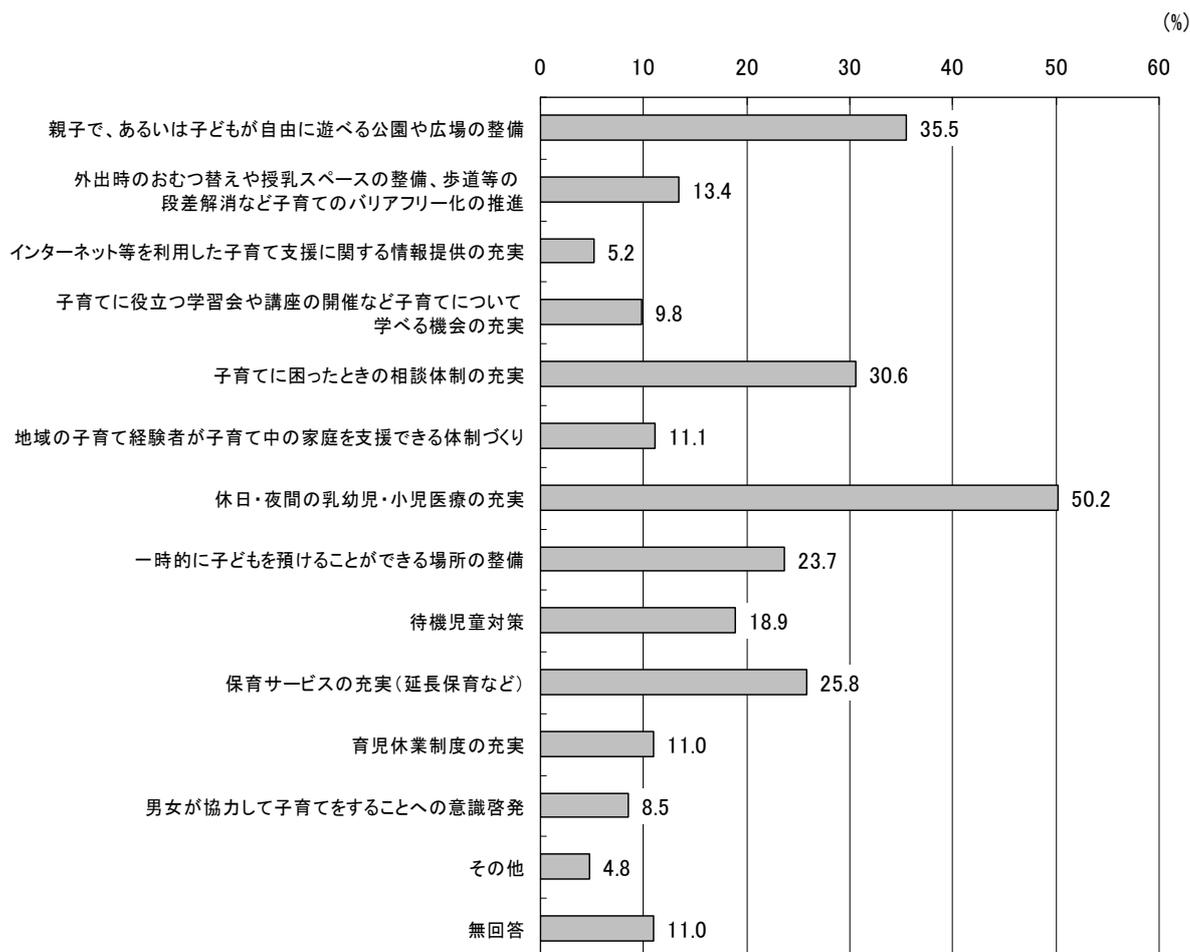
地域別にみると、北部地域と東部・月ヶ瀬・都祁地域で「近々設置を予定しているから」が5割を超えている。(nが少ないため参考まで) (図3.2.5.1-1)

3.3 子育てについて

1) 市に力を入れてほしい子育て対策

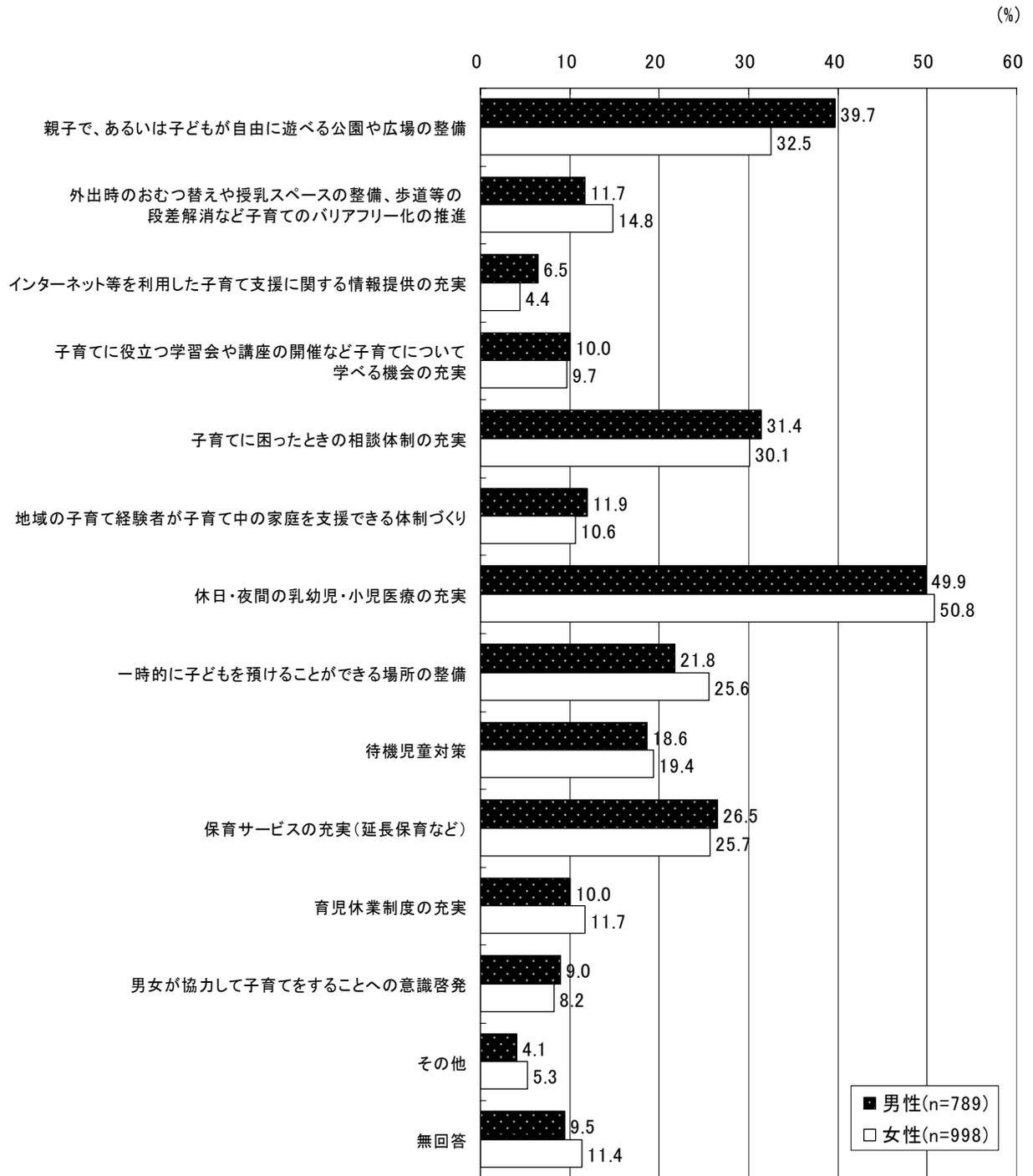
問11 子育て対策として、特に、奈良市に力を入れてほしい対策は何ですか。
(あてはまるもの3つに○)

図3.3.1 市に力を入れてほしい子育て対策【n=1,810】



市に力を入れてほしい子育て対策について、「休日・夜間の乳幼児・小児医療の充実」が50.2%と最も高い。次いで「親子で、あるいは子どもが自由に遊べる公園や広場の整備」が35.5%、「子育てに困ったときの相談体制の充実」が30.6%の順となっている。(図3.3.1)

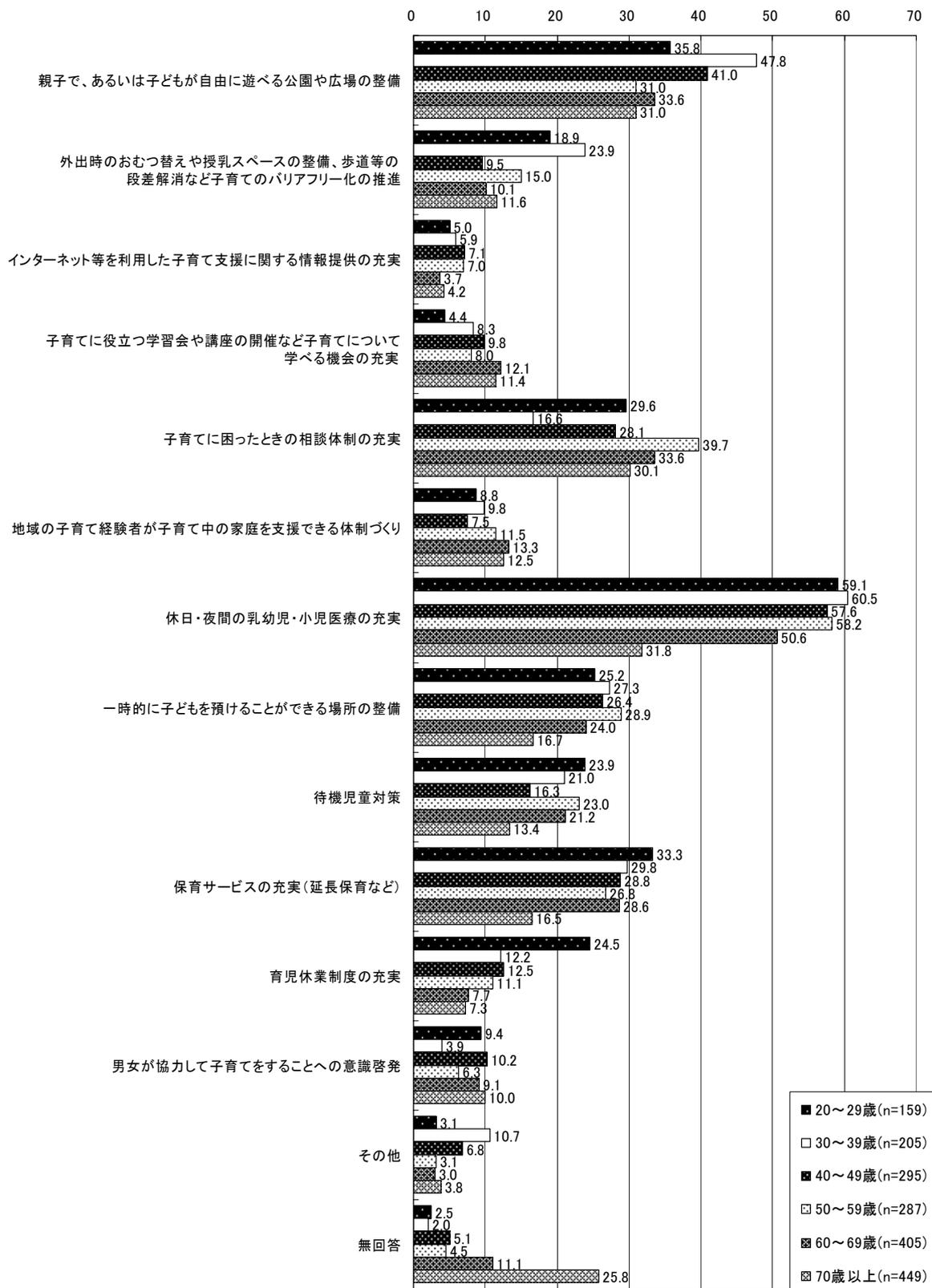
図3.3.1-1 性別 市に力を入れてほしい子育て対策



性別では、男性、女性で大きくは変わらない。(図 3. 3. 1-1)

図3.3.1-2 年齢別 市に力を入れてほしい子育て対策

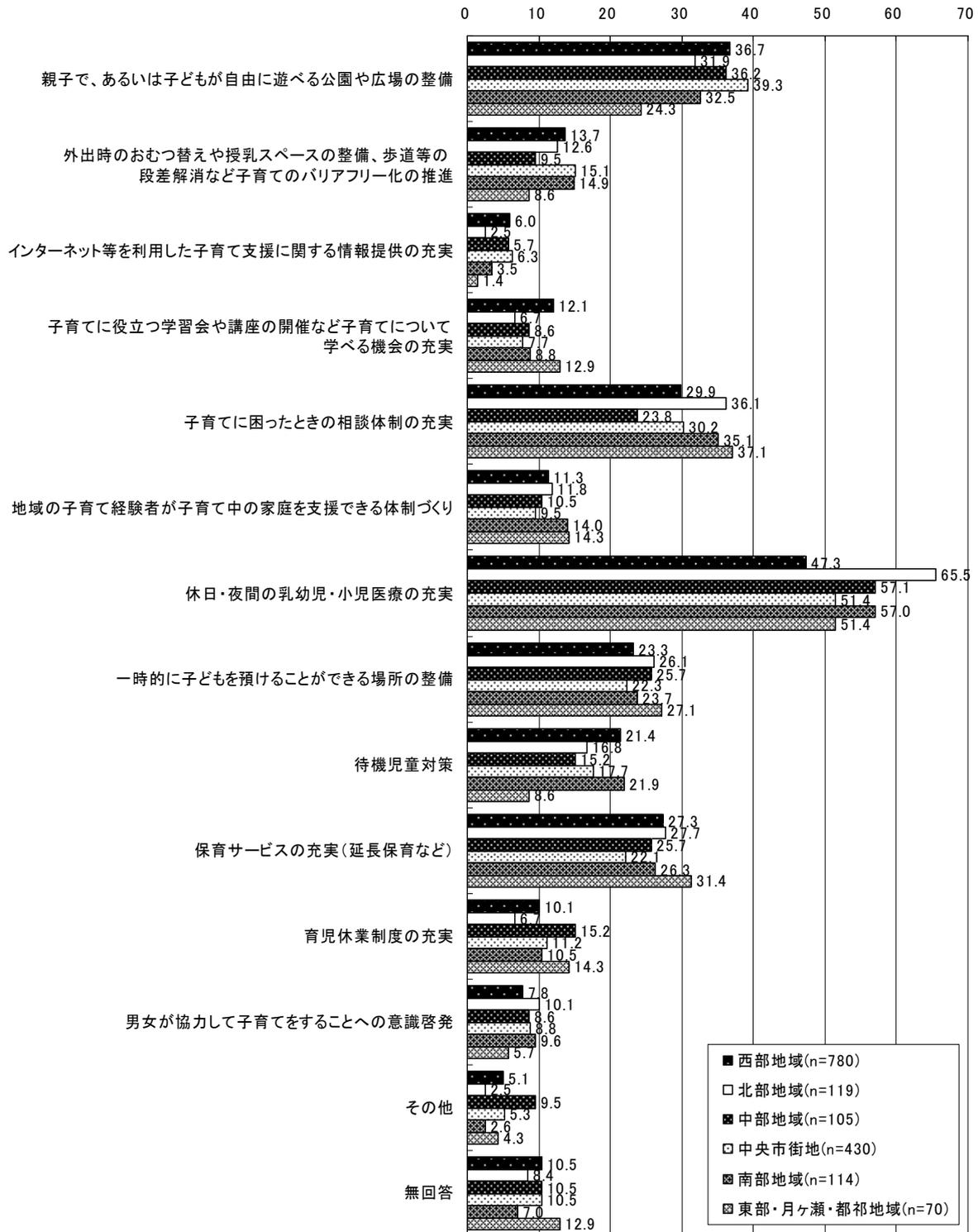
(%)



年齢別では、20歳～59歳で、「休日・夜間の乳幼児・小児医療の充実」が6割前後と高い。また、30～39歳で、「親子で、あるいは子どもが自由に遊べる公園や広場の整備」が5割に近く高い。さらに、50～59歳で「子育てに困ったときの相談体制の充実」が4割近く高いが、30～39歳では2割弱と低い。(図3.3.1-2)

図3.3.1-3 地域別 市に力を入れてほしい子育て対策

(%)

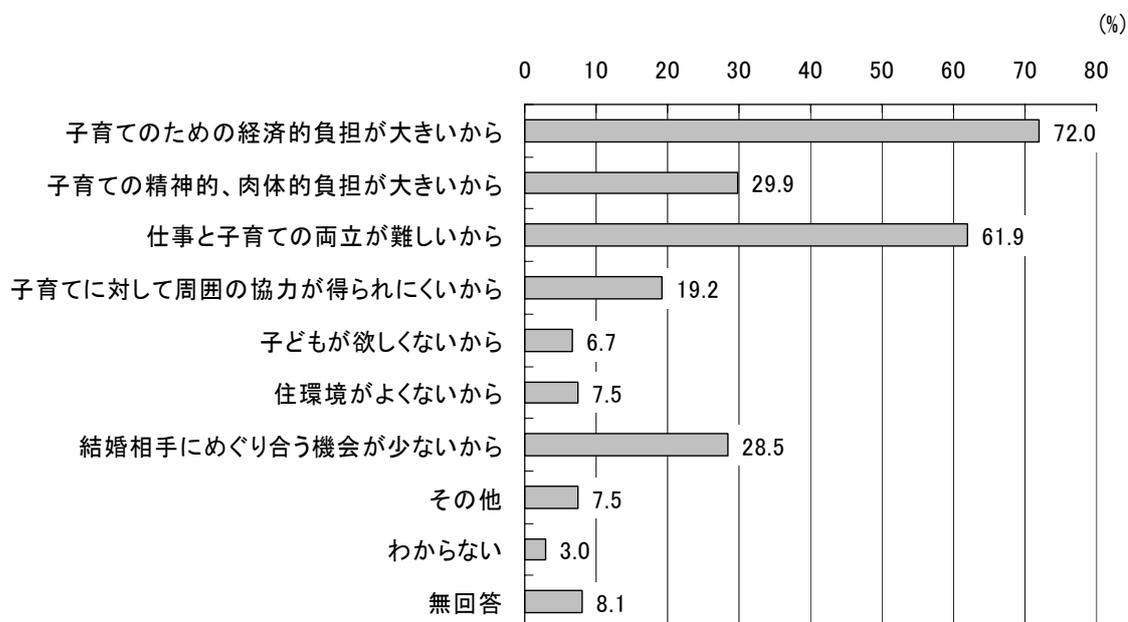


地域別にみると、北部地域で、「休日・夜間の乳幼児・小児医療の充実」が7割近くと高い。(図 3.3.1-3)

2) 市民が感じる少子化の原因

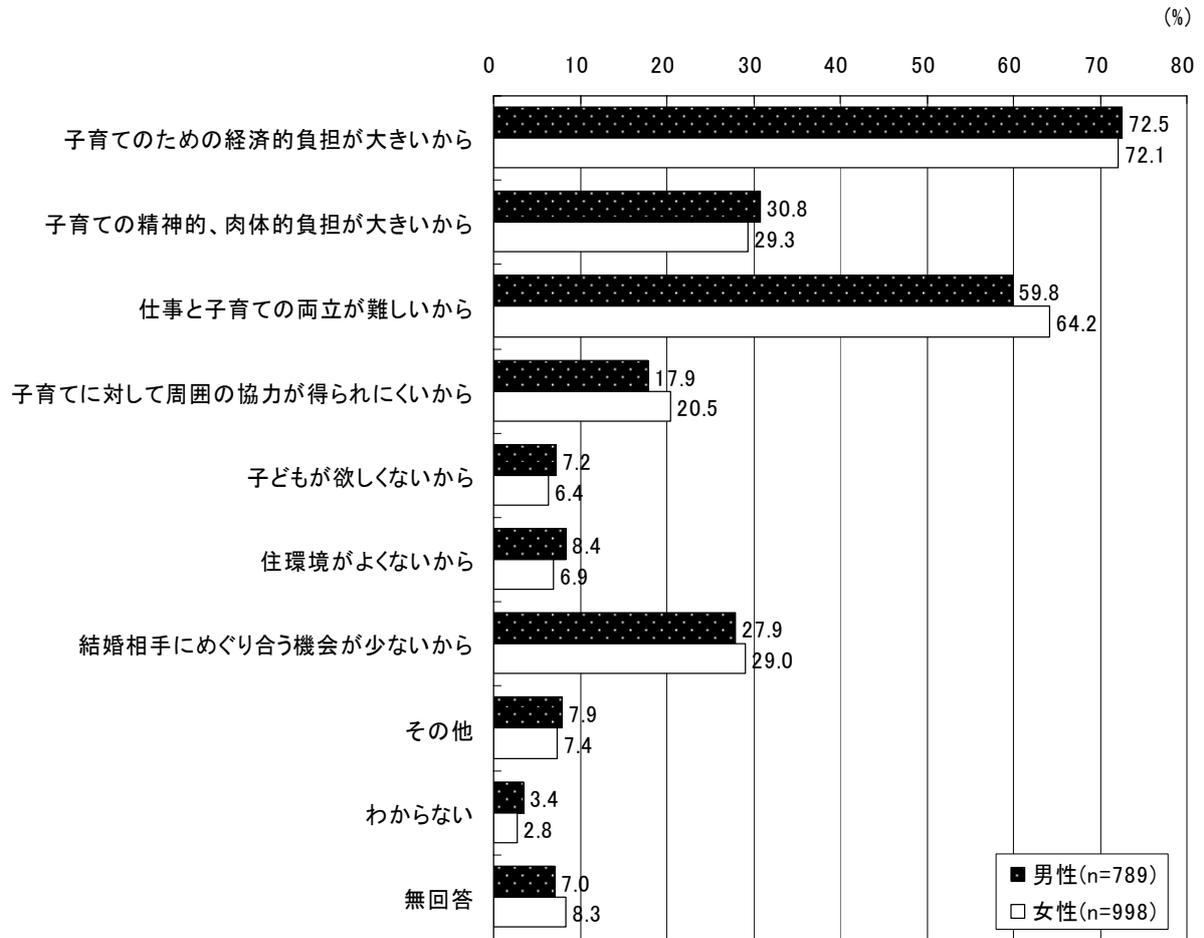
問12 少子化が進んでいると言われていますが、どのようなことが原因だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図3.3.2 少子化の原因【n=1,810】



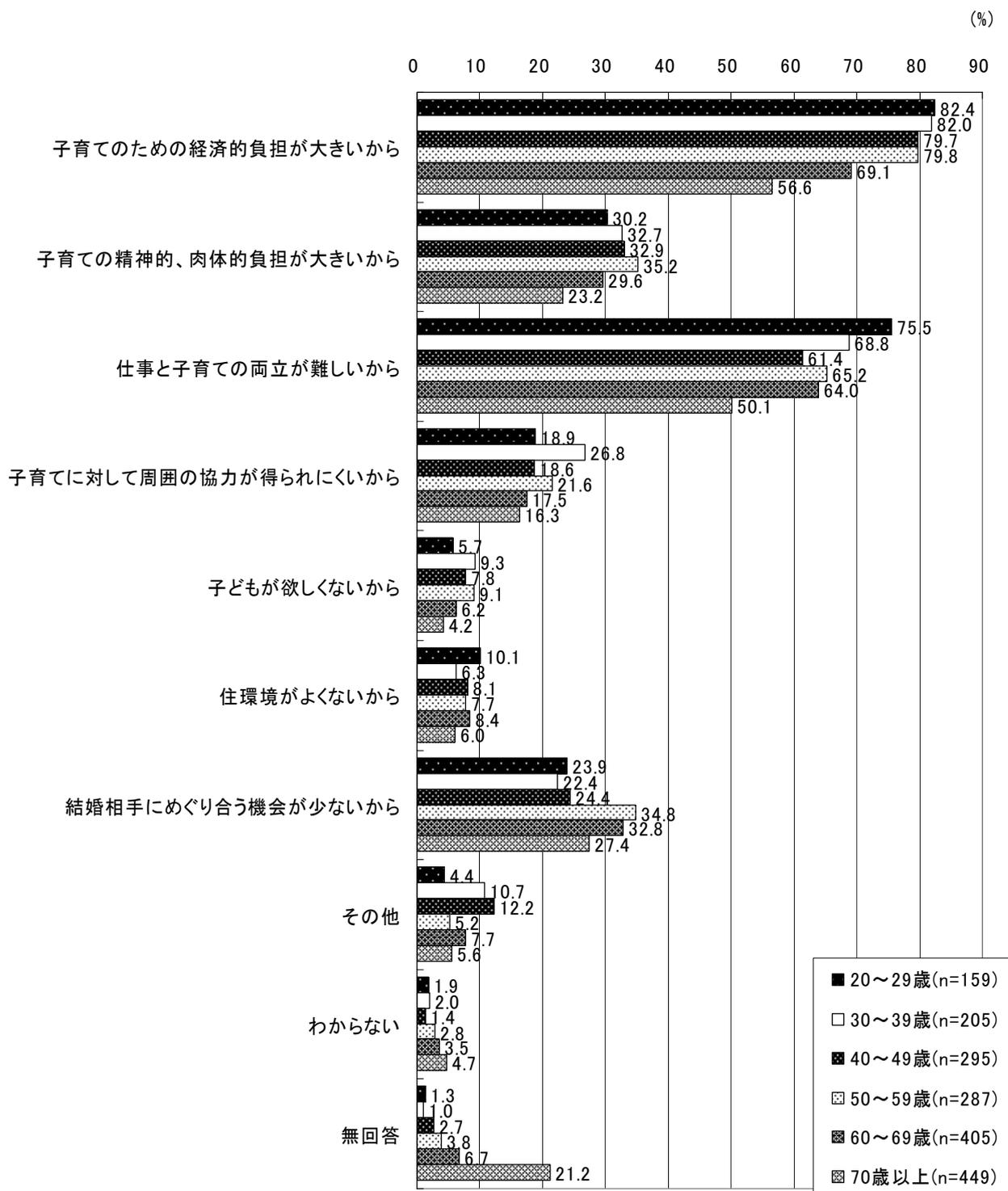
少子化の原因として考えられることについて、「子育てのための経済的負担が大きいから」が72.0%と最も高い。次いで「仕事と子育ての両立が難しいから」が61.9%となっている。(図3.3.2)

図3.3.2-1 性別 少子化の原因



性別では、全体的に大きな差はない。女性で「仕事と子育ての両立が難しいから」が男性より5%ほど高い。(図 3.3.2-1)

図3.3.2-2 年齢別 少子化の原因

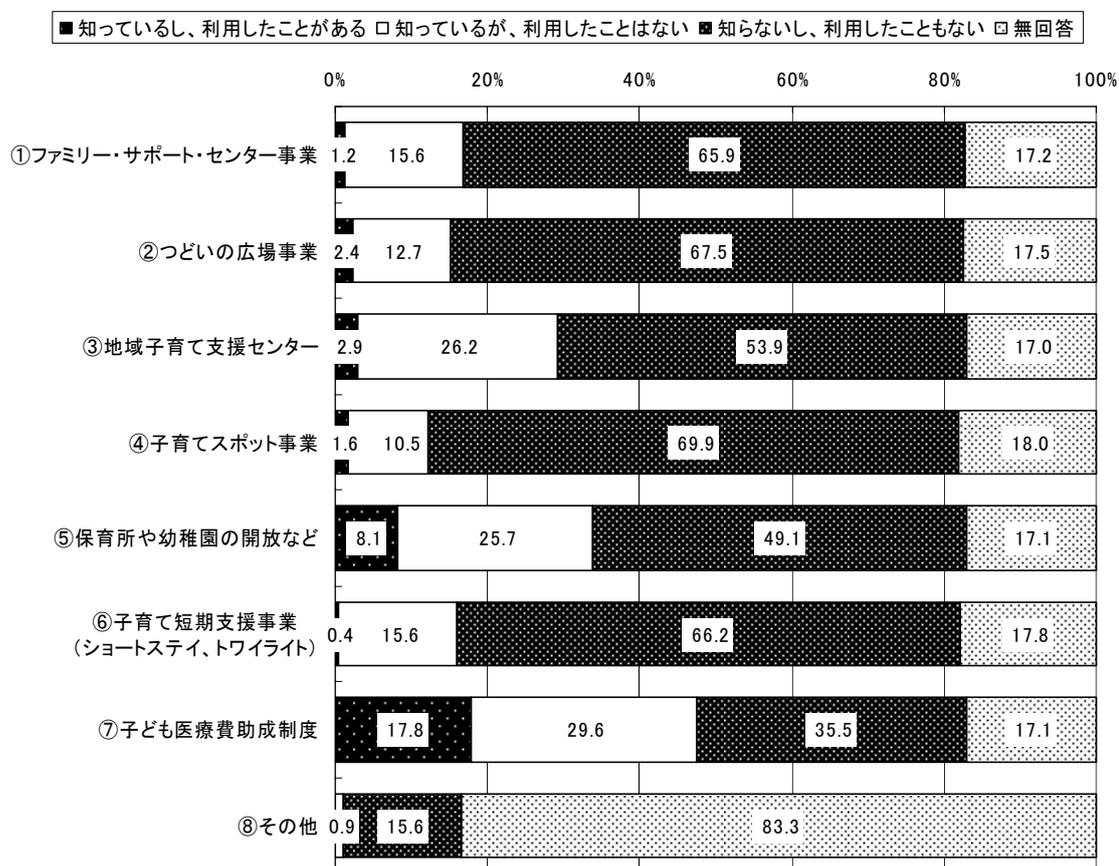


年齢別では、「子育てのための経済的負担が大きいから」が20～59歳で8割前後と高く、年齢が若くなるにつれてこの割合も高くなっている。また、20～29歳で、「仕事と子育ての両立が難しいから」が8割近く、他の年齢に比べ高くなっている。(図3.3.2-2)

3) 子育て支援事業の認知・利用状況

問13 奈良市の子育て支援事業について、次の項目ごとにあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

図3.3.3 奈良市の子育て支援事業【n=1,810】



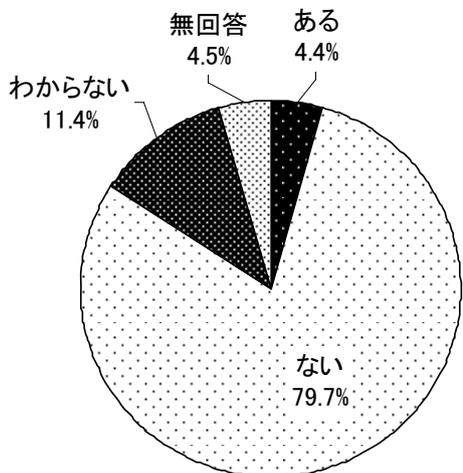
奈良市の子育て支援事業について、「知っているし、利用したことがある」事業は、「子ども医療費助成制度」が17.8%で最も高い。次いで、「保育所や幼稚園の開放など」が8.1%となっている。

「知っているし、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した認知度は、「子ども医療費助成制度」が47.4%と最も高い。次いで、「保育所や幼稚園の開放など」が33.8%、「地域子育て支援センター」が29.1%の順となっている。一方、「子育てスポット事業」が12.1%と最も低い。(図3.3.3)

4) 児童虐待の存在認識

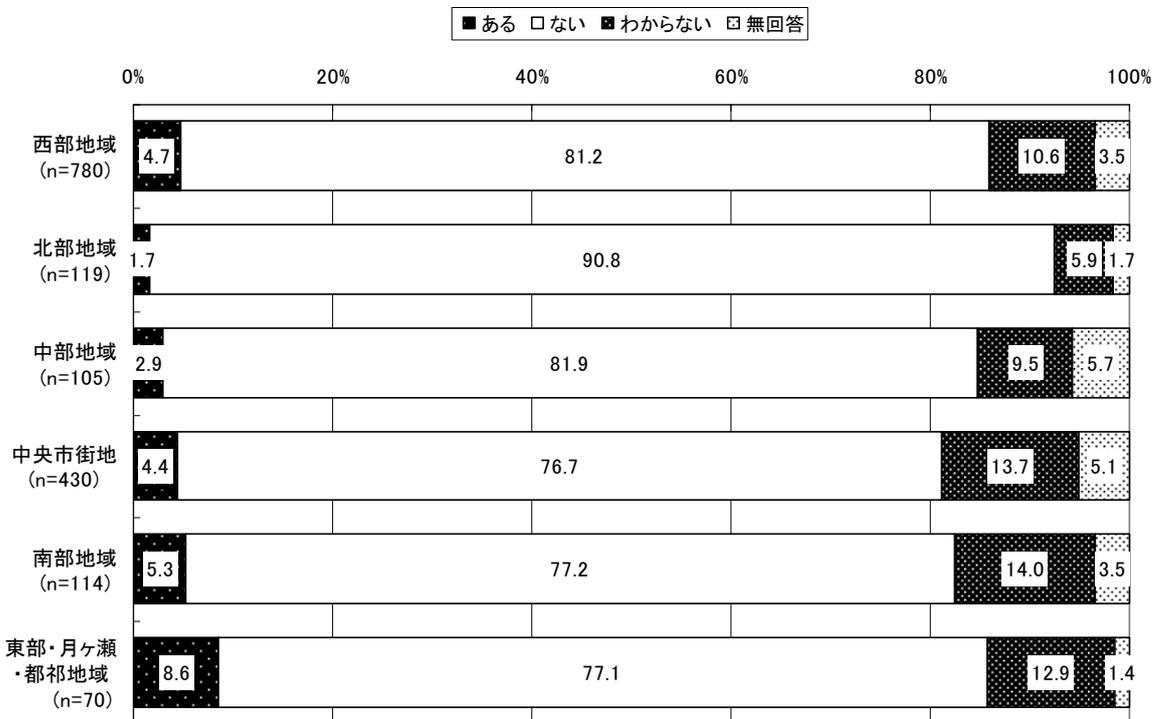
問 1 4 あなたの身近なところで虐待を受けたと思われる子どもを見たり聞いたりしたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

図3.3.4 児童虐待の存在認識【n=1,810】



身近で虐待を受けた子どもを見たり聞いたりしたことについて、「ある」が4.4%、「ない」が79.7%となっている。(図3.3.4)

図3.3.4-1 地域別 児童虐待の存在認識

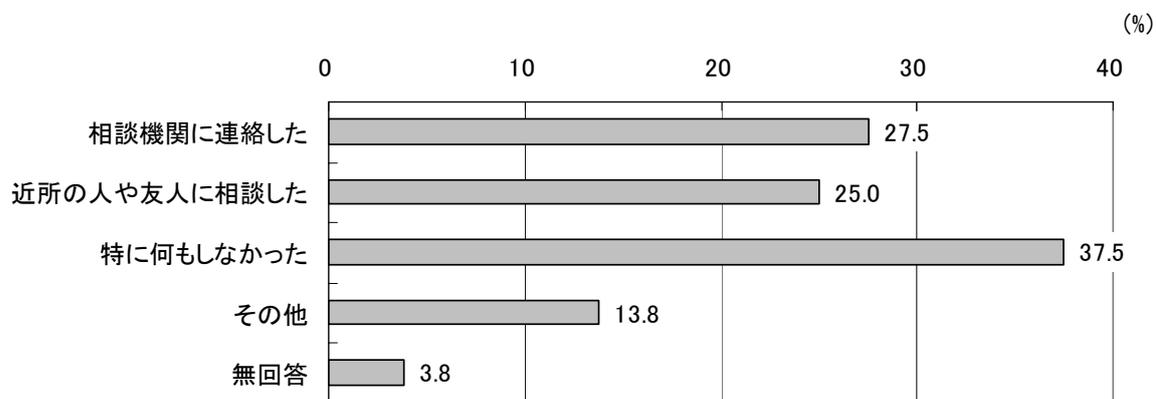


地域別にみると、東部・月ヶ瀬・都祁地域で「ある」が1割に近く、他地域に比べ高い。(図3.3.4-1)

(1) 身近に児童虐待を知ったときの対応

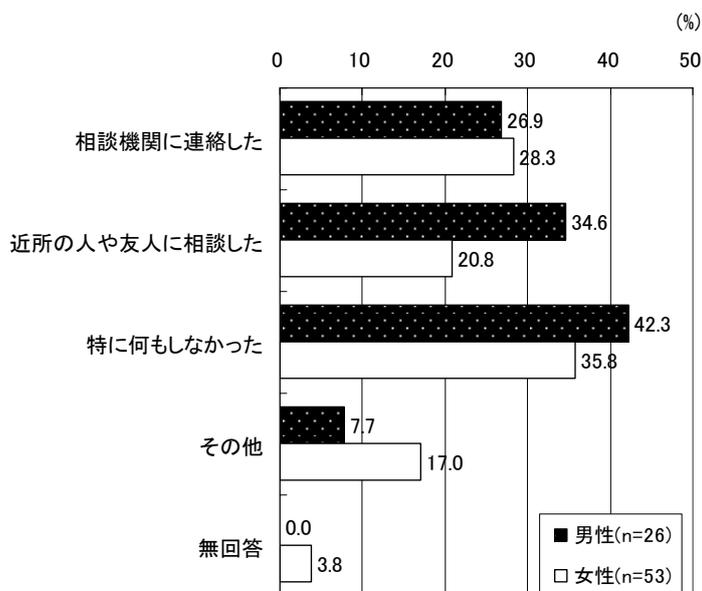
問14-1 問14で「1. ある」を選んだ方にお伺いします。
あなたはその時、どのような対応をしましたか（あてはまるものすべてに○）

図3.3.4.1 児童虐待を知ったときの対応【n=80】



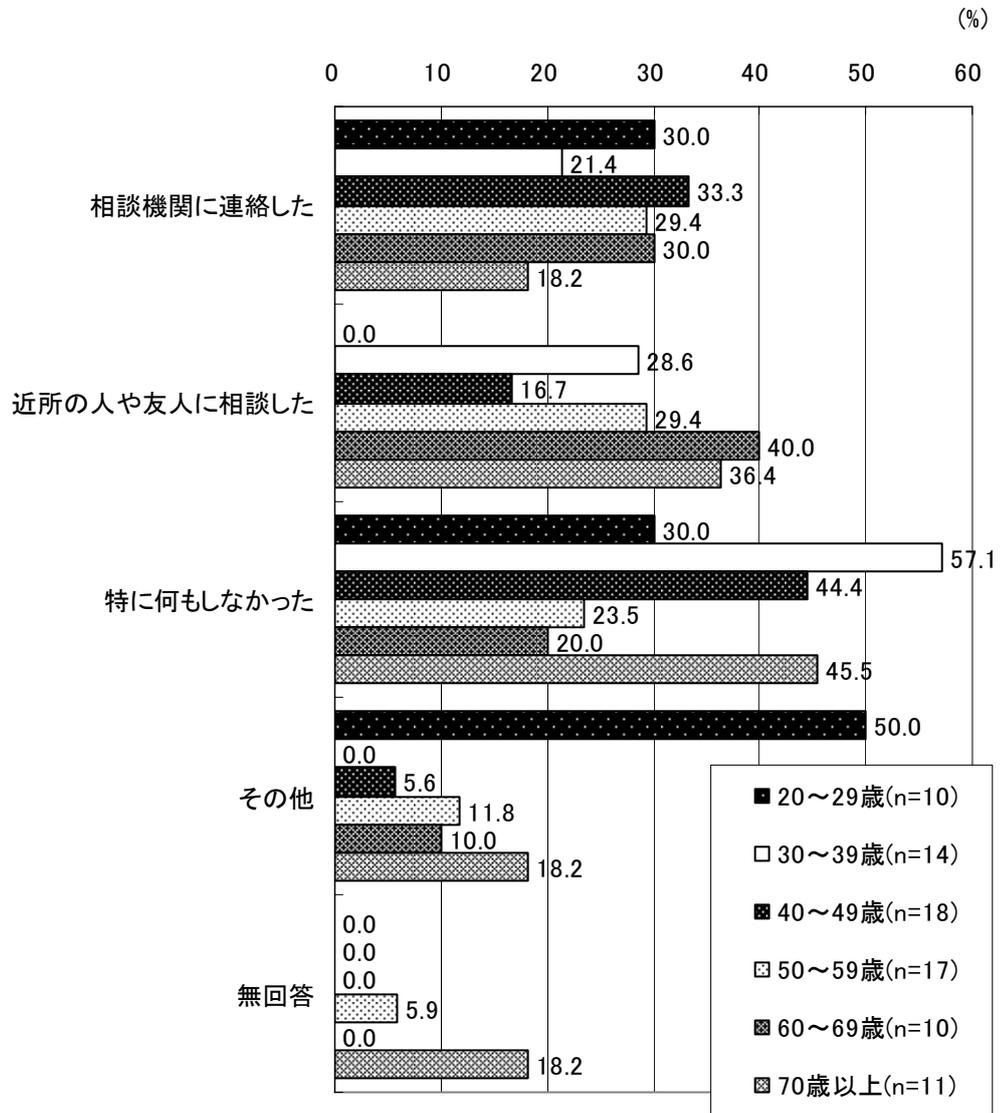
身近で虐待を受けた子どもを見たり聞いたりしたことがある人に、虐待を知ったときの対応について尋ねたところ、「特に何もしなかった」が37.5%で最も高い。次いで、「相談機関に連絡した」が27.5%となっている。（図3.3.4.1）

図3.3.4.1-1 性別 児童虐待を知ったときの対応



性別で見ると、男性で「近所の人や友人に相談した」が、女性より10%以上高い。（nが少ないため参考まで）（図3.3.4.1-1）

図3.3.4.1-2 年齢別 児童虐待を知ったときの対応

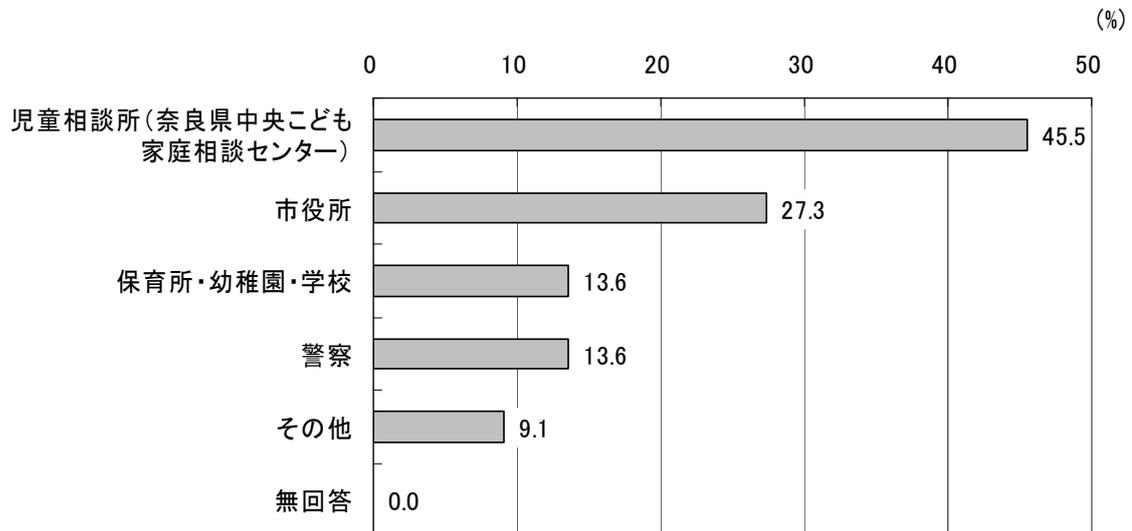


年齢別にみると、30~39歳で「特に何もしなかった」が6割近く、他の年齢に比べ高い。(nが少ないため参考まで) (図 3.3.4.1-2)

(2) 児童虐待を知ったときに連絡した相談機関

問14-2 問14-1で「1. 相談機関に連絡した」を選んだ方にお伺いします。
どちらに連絡しましたか。(あてはまるものすべてに○)

図3.3.4.2 連絡した相談機関【n=22】



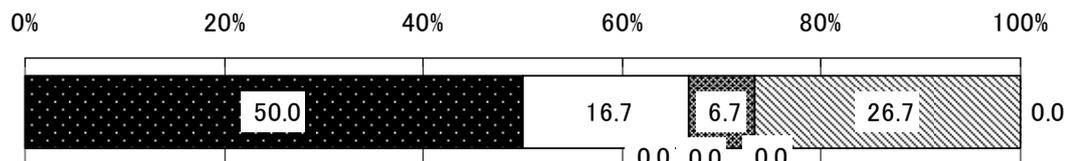
児童虐待を知って相談機関に連絡した人に、連絡した相談機関について尋ねたところ、「児童相談所(奈良県中央こども家庭相談センター)」が45.5%で最も高い。次いで、「市役所」が27.3%となっている。(図3.3.4.2)

(3) 児童虐待を知っても行動しなかった理由

問14-3 問14-1で「3. 特に何もしなかった」を選んだ方にお伺いします。
それはどうしてですか。(あてはまるもの1つに○)

図3.3.4.3 児童虐待を知っても行動しなかった理由【n=30】

- 虐待かどうかわからなかったから
- 事情を聞かれるなど面倒そうだったから
- 他人の家庭内の問題だと思ったから
- その他
- 連絡したことにより逆恨みされるのが怖かったから
- どこに連絡してよいかわからなかったから
- 自分には関係ないことだと思ったから
- 無回答

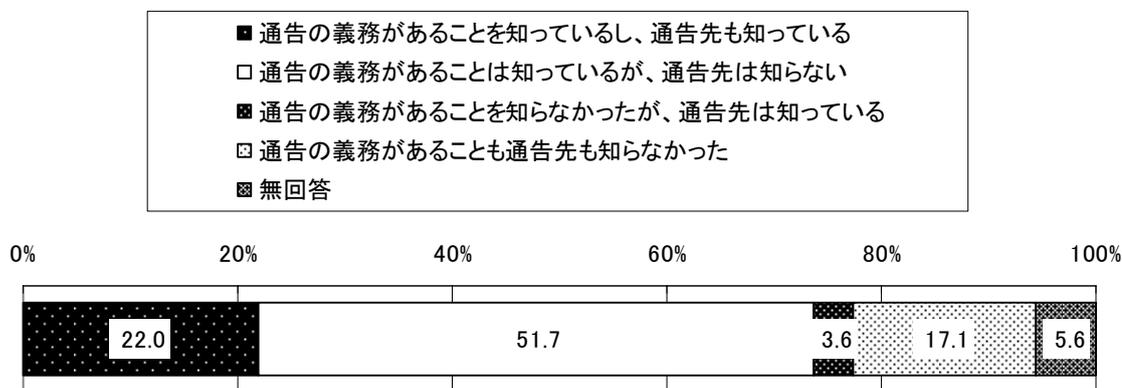


児童虐待を知って特に何もしなかった人に、その理由について尋ねたところ、「虐待かどうかわからなかったから」が50.0%で最も高い。次いで、「連絡したことにより逆恨みされるのが怖かったから」が16.7%となっている。(図3.3.4.3)

5) 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度

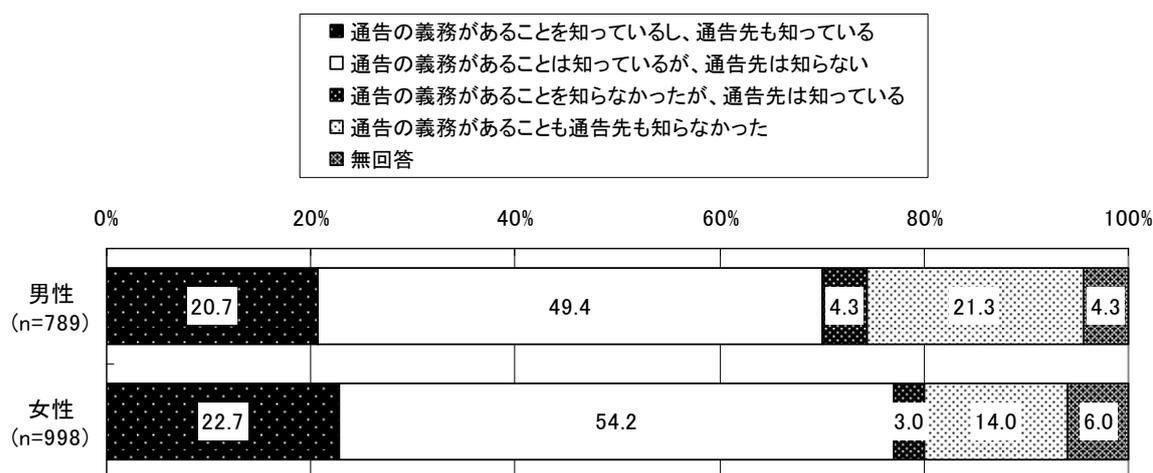
問15 「児童虐待の防止等に関する法律」では、児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合、通告・相談することを義務づけていますが、そのことについてご存知ですか。
(あてはまるもの1つに○)

図3.3.5 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度【n=1,810】



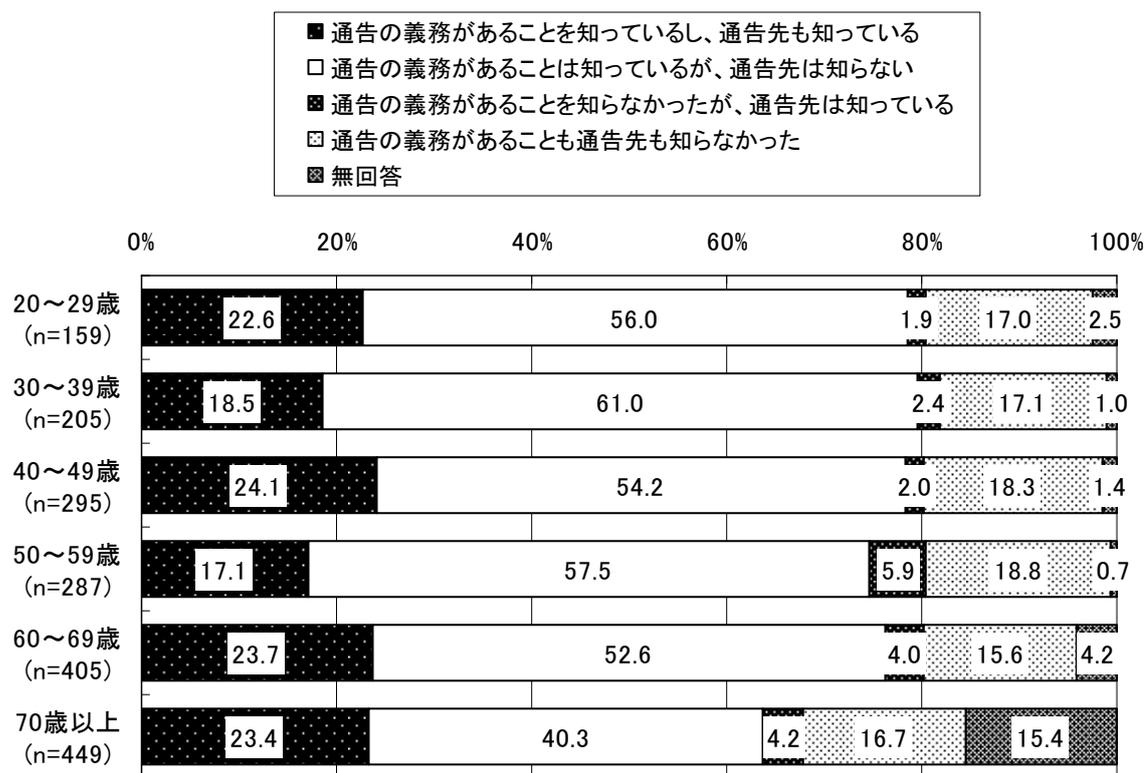
児童虐待の通告・相談の義務づけの周知について、「通告の義務があることは知っているが、通告先は知らない」が 51.7%で最も高い。次いで、「通告の義務があることを知っているし、通告先も知っている」が 22.0%、「通告の義務があることも通告先も知らなかった」が 17.1%の順となっている。(図 3.3.5)

図3.3.5-1 性別 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度



性別では、男性で女性より「通告の義務があることも通告先も知らなかった」が5%程度高く、「通告の義務があることは知っているが、通告先は知らない」が5%程度低い。(図 3.3.5-1)

図3.3.5-2 年齢別 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度

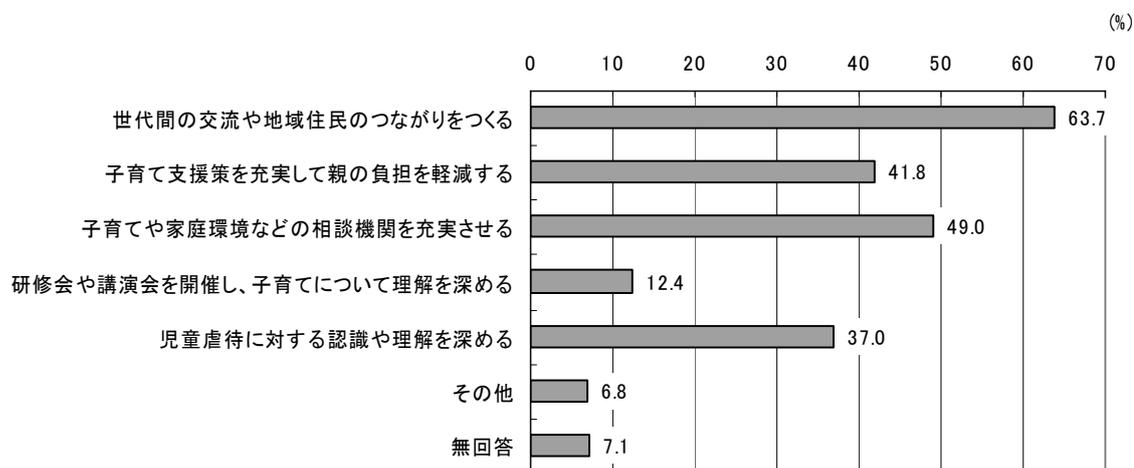


年齢別では、70歳以上で「通告の義務があることは知っているが、通告先は知らない」が4割と低い。(図 3.3.5-2)

6) 児童虐待防止に必要な取り組み

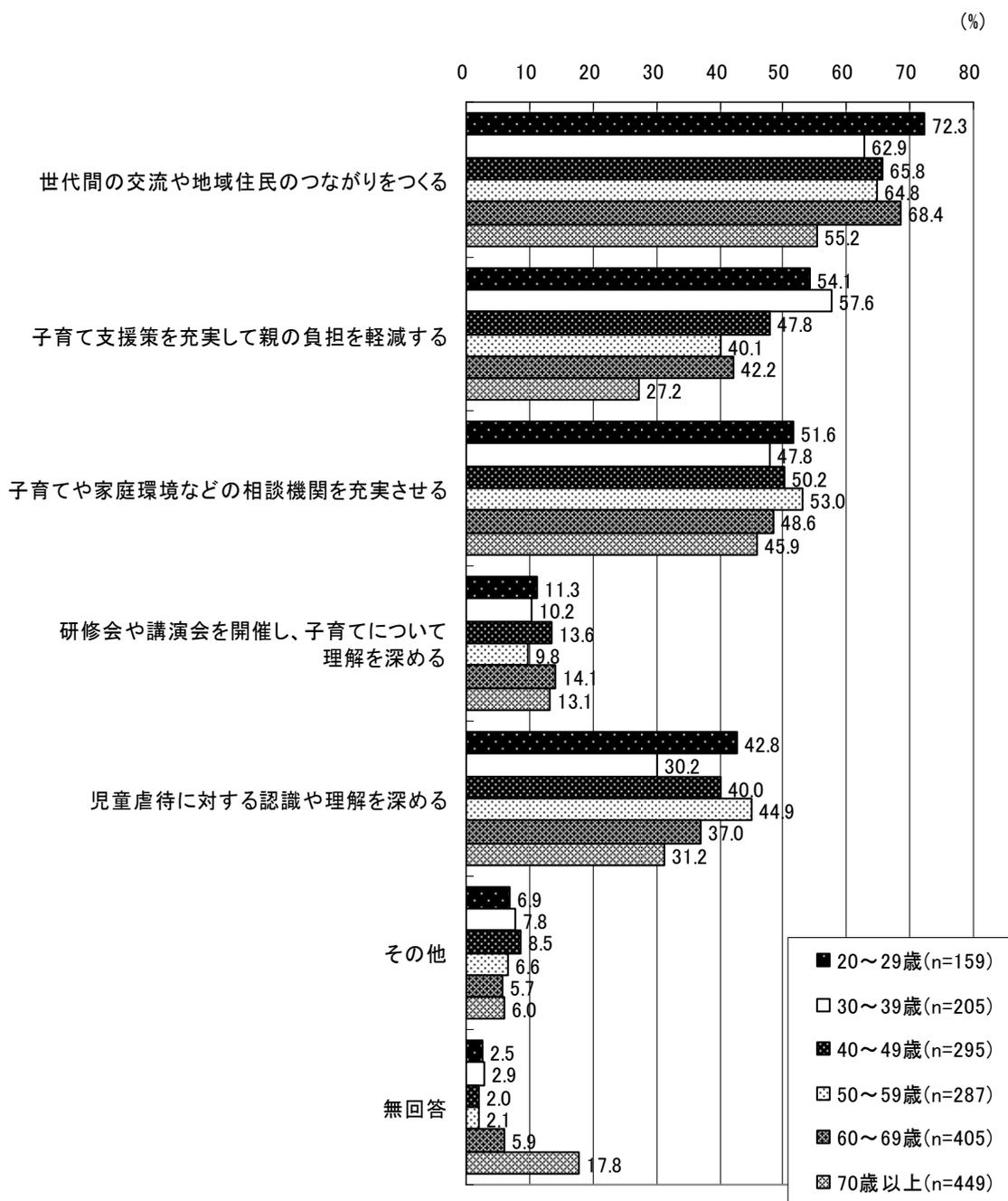
問16 児童虐待を防止するには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図3.3.6 児童虐待防止に必要なこと【n=1,810】



児童虐待防止に必要なことについて、「世代間の交流や地域住民のつながりをつくる」が63.7%で最も高い。次いで、「子育てや家庭環境などの相談機関を充実させる」が49.0%、「子育て支援策を充実して親の負担を軽減する」が41.8%、「児童虐待に対する認識や理解を深める」が37.0%の順となっている。(図3.3.6)

図3.3.6-1 年齢別 児童虐待防止に必要なこと



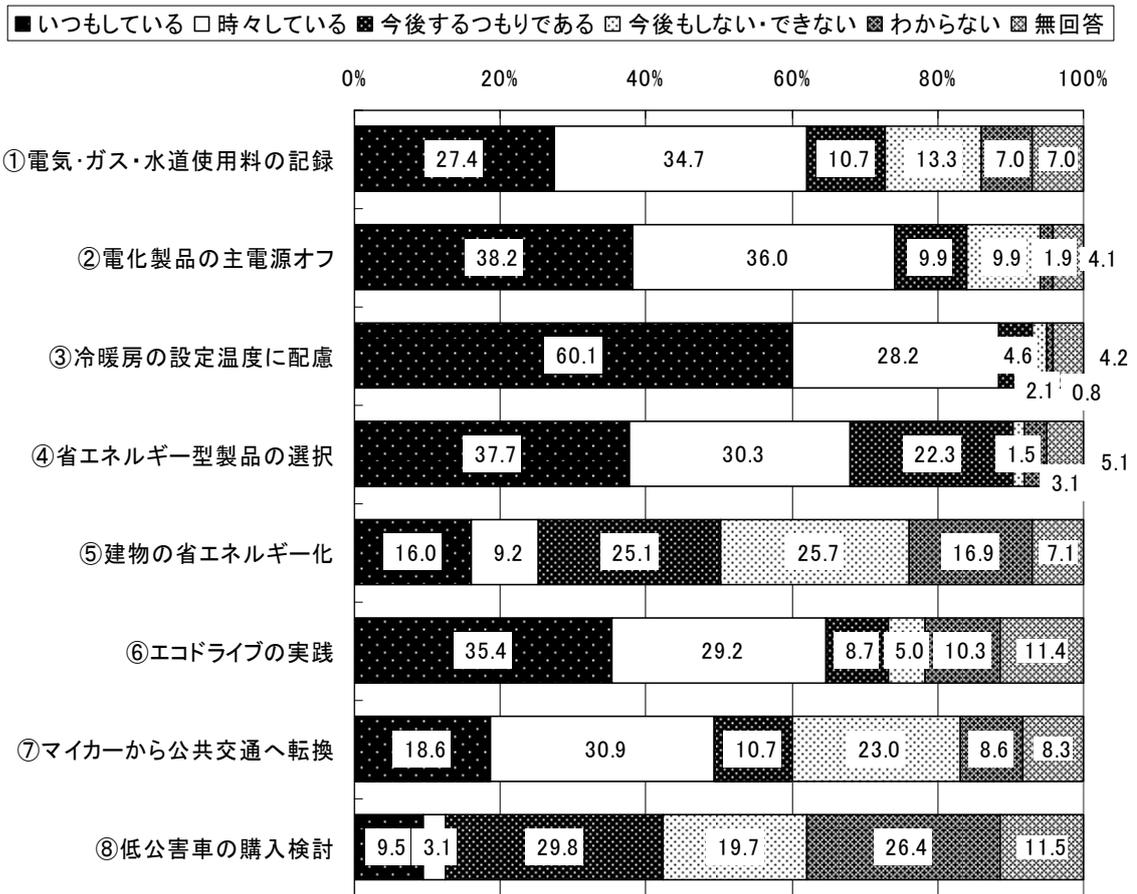
年齢別では、すべての年代で「世代間の交流や地域住民のつながりをつくる」が最も高い。
(図 3.3.6-1)

3.4 環境について

1) 省エネルギーへの取り組み状況

問17 省エネルギーへの取り組みについて、次の項目ごとにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

図3.4.1 省エネルギーへの取り組み【n=1,810】

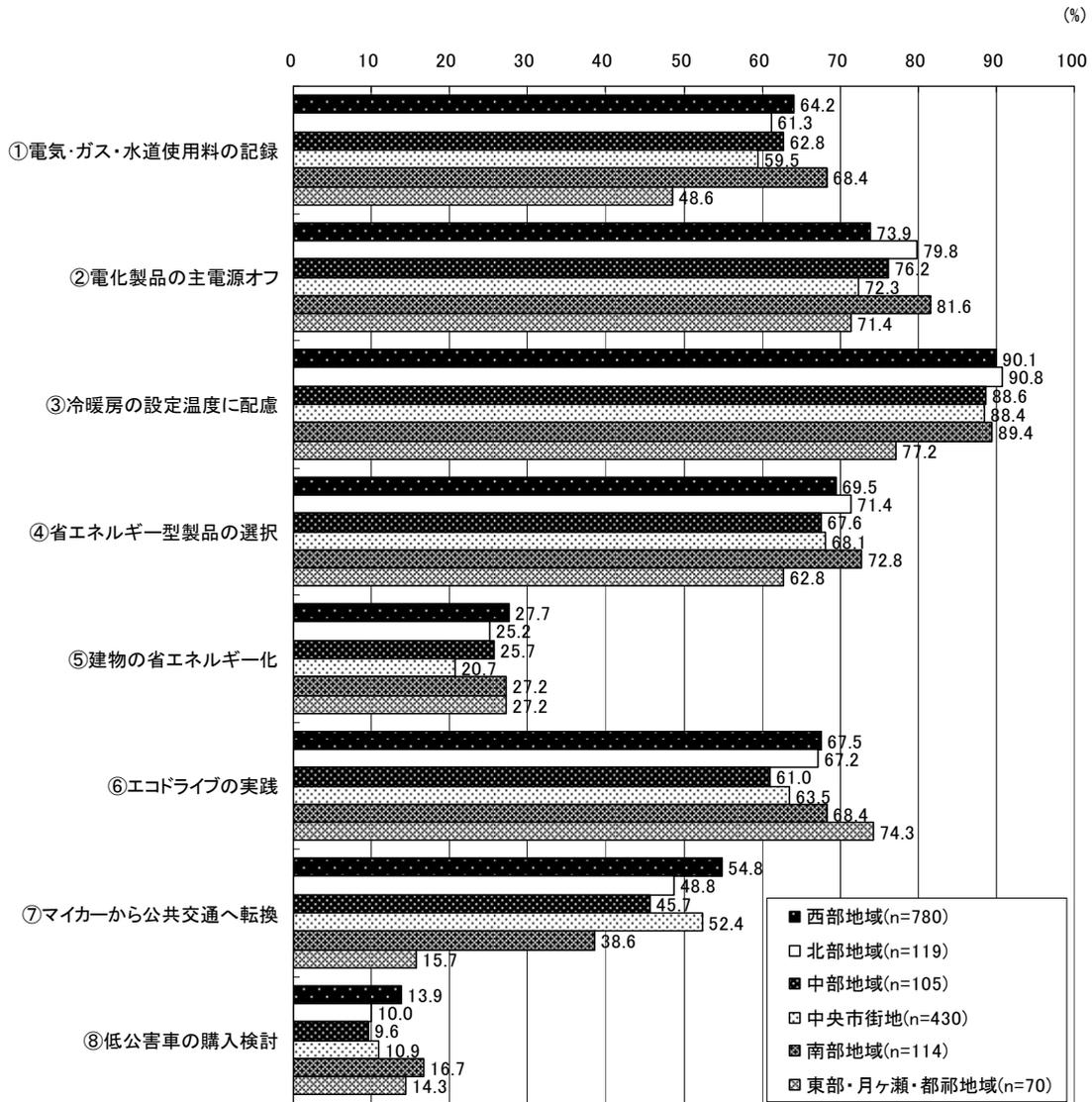


省エネルギーへの取り組みについて、『冷暖房の設定温度に配慮』は「いつもしている」と「時々している」の合計が9割である。また、『電化製品の主電源オフ』と『省エネルギー型製品の選択』が7割、『電気・ガス・水道使用料の記録』と『エコドライブの実践』が6割、『マイカーから公共交通へ転換』が5割となっている。一方、『建物の省エネルギー化』が3割、『低公害車の購入検討』が1割となっている。

「今後するつもりである」が高い項目として、『低公害車の購入検討』と『建物の省エネルギー化』が3割、『省エネルギー型製品の選択』が2割となっている。

「今後もしない・できない」が高い項目として、『建物の省エネルギー化』が3割、『マイカーから公共交通へ転換』と『低公害車の購入検討』が2割となっている。(図3.4.1)

図3.4.1-1 地域別 省エネルギーへの取組実施率



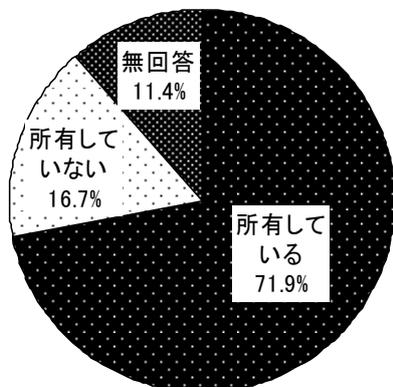
※ 「いつも実施している」、「時々している」を合わせて回答した割合を取り組み実施率とした。

全ての地域において、『冷暖房の設定温度に配慮』に取り組んでいる割合が多かった。主な特徴として、『電気・ガス・水道使用料の記録』を最も実施している地域は南部地域、『エコドライブの実践』を最も実施している地域は東部・月ヶ瀬・都祁地域であった。(図 3.4.1-1)

2) 車の所有状況

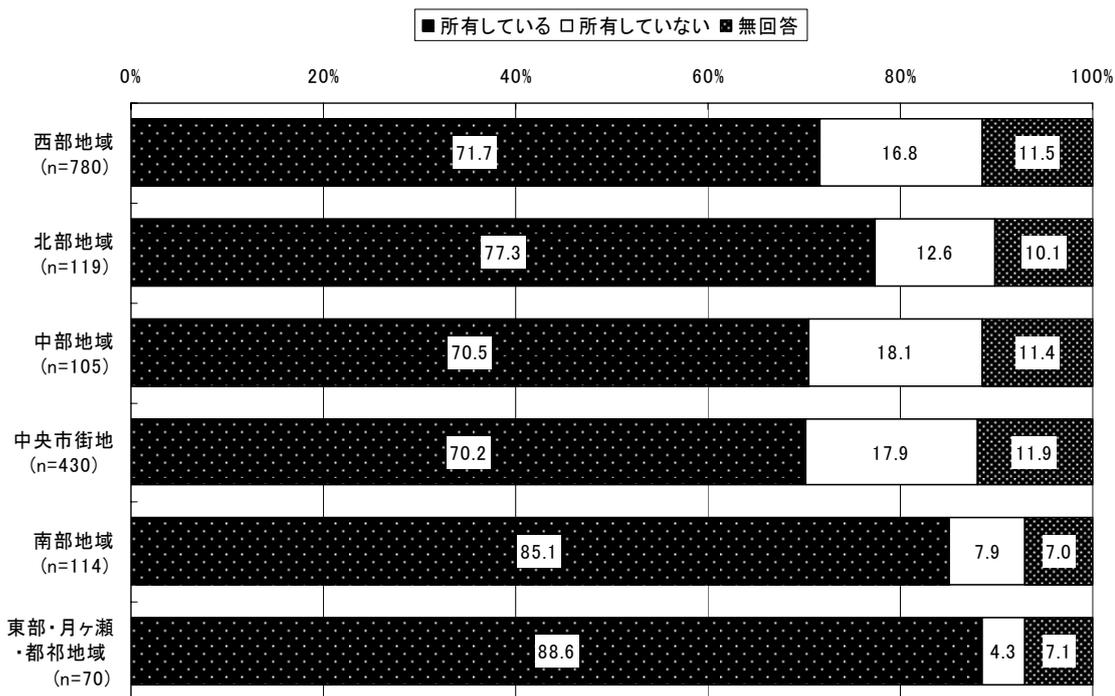
問18 ご家庭では、車を所有していますか。(あてはまるもの1つに○)

図3.4.2 車の所有状況【n=1,810】



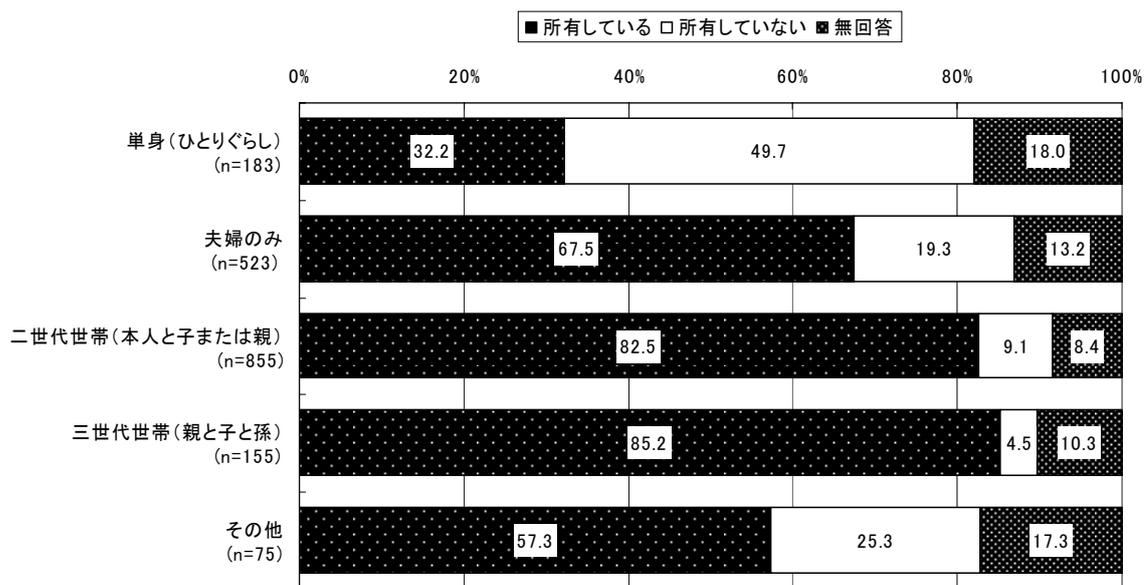
車の世帯所有率は、71.9%である。一方、非所有率は16.7%となっている。(図3.4.2)

図3.4.2-1 地域別 車の所有状況



地域別にみると、南部地域、東部・月ヶ瀬・都祁地域で、車の所有率が9割近くと他地域に比べ高い。(図3.4.2-1)

図3.4.2-2 家族構成別 車の所有状況

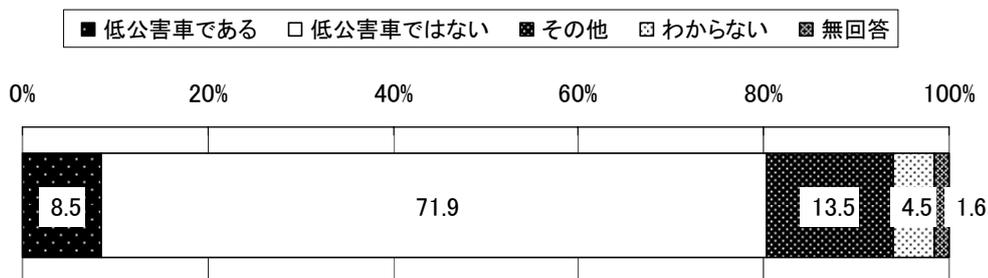


家族構成別にみると、二世帯世帯、三世帯世帯で8割を超えており、他の家族構成より高い。夫婦のみ、単身と家族構成が小さくなるにつれ車の所有状況が低い。(図 3.4.2-2)

(1) 低公害車の所有状況

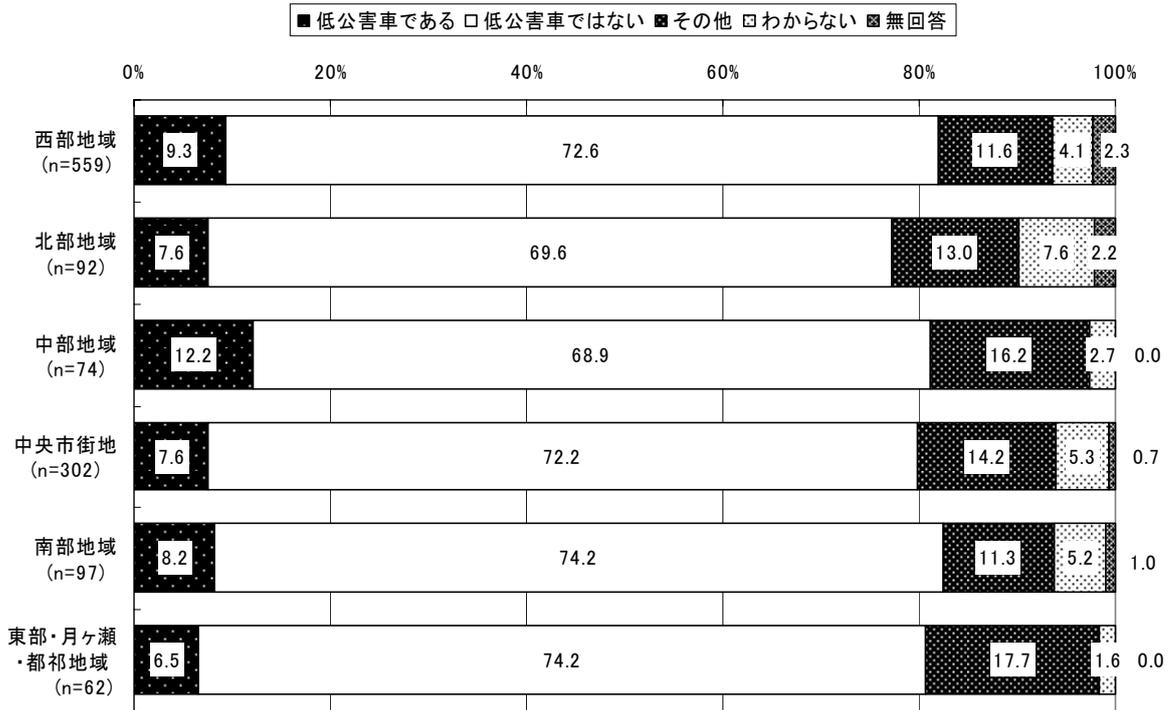
問18-1 問18で「1. 所有している」を選んだ方にお伺いします。所有している車は低公害車(ハイブリッド車・電気自動車)ですか。(あてはまるもの1つに○)

図3.4.2.1 低公害車の所有状況【n=1,301】



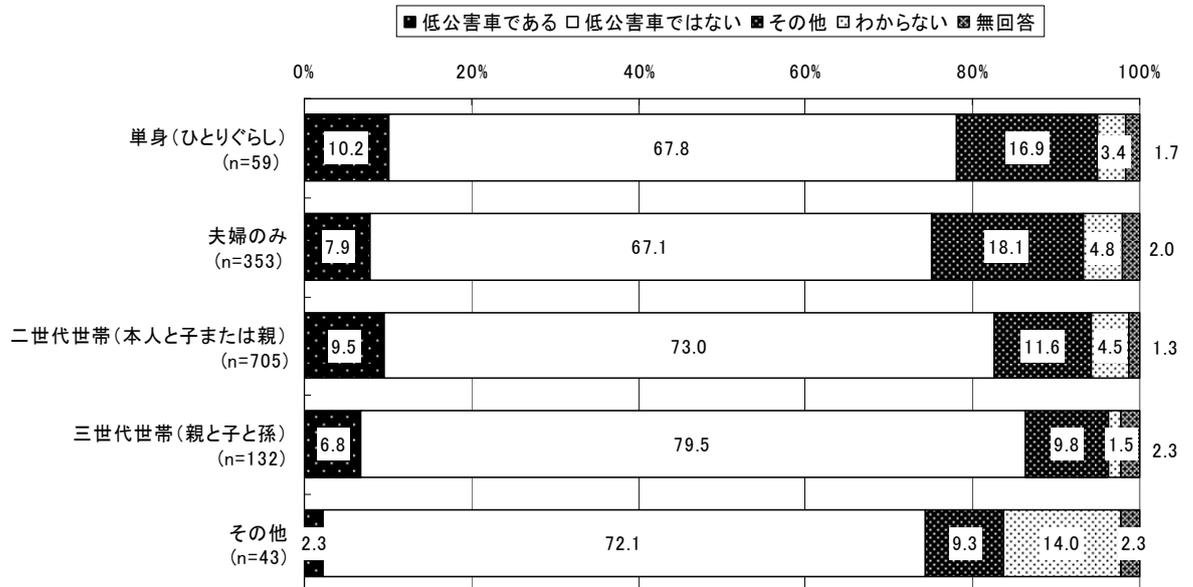
車を所有されている人(世帯)で、低公害車の所有率は8.5%である。一方、非低公害車の所有率は71.9%となっている。(図 3.4.2.1)

図3.4.2.1-1 地域別 低公害車の所有状況



地域別にみると、中部地域で、低公害車の所有率が1割を超えており、他地域に比べ高い。
(図 3.4.2.1-1)

図3.4.2.1-2 家族構成別 低公害車の所有状況

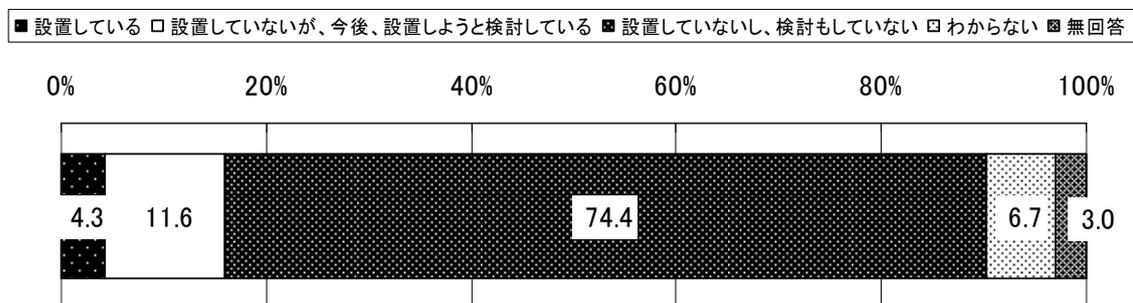


家族構成別にみると、単身世帯で1割を超えている。(図 3.4.2.1-2)

3) 家庭用ソーラーパネルの所有状況

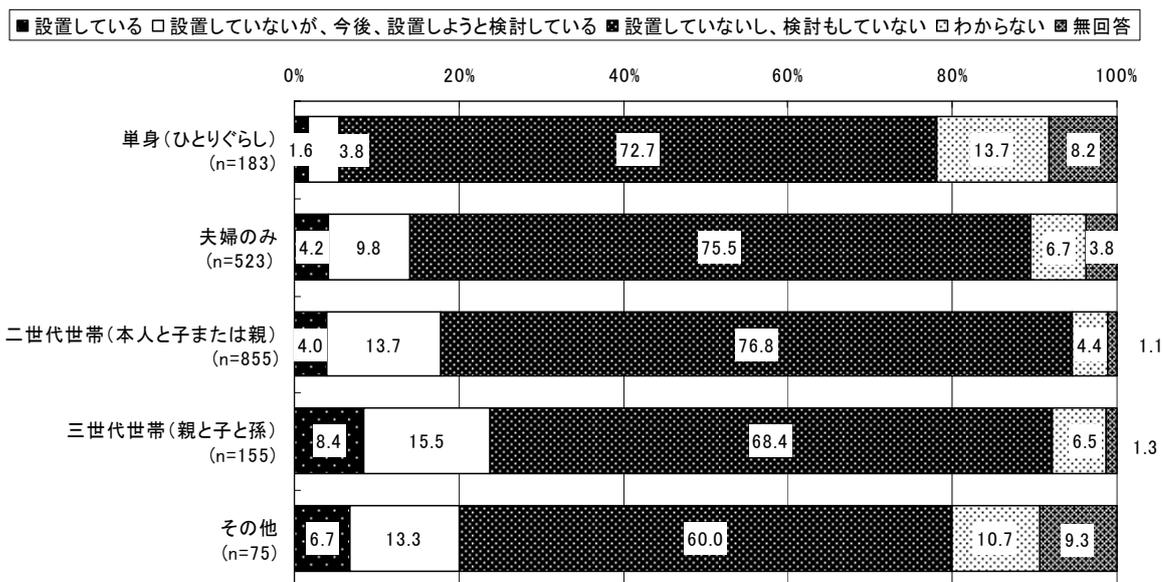
問19 ご家庭では、家庭用ソーラーパネルを設置していますか。
(あてはまるもの1つに○)

図3.4.3 家庭用ソーラーパネルの設置状況【n=1,810】



家庭用ソーラーパネルの設置率は、4.3%である。一方、「設置していないし、検討もしていない」が74.4%となっている。(図3.4.3)

図3.4.3-1 家族構成別 家庭用ソーラーパネルの設置状況

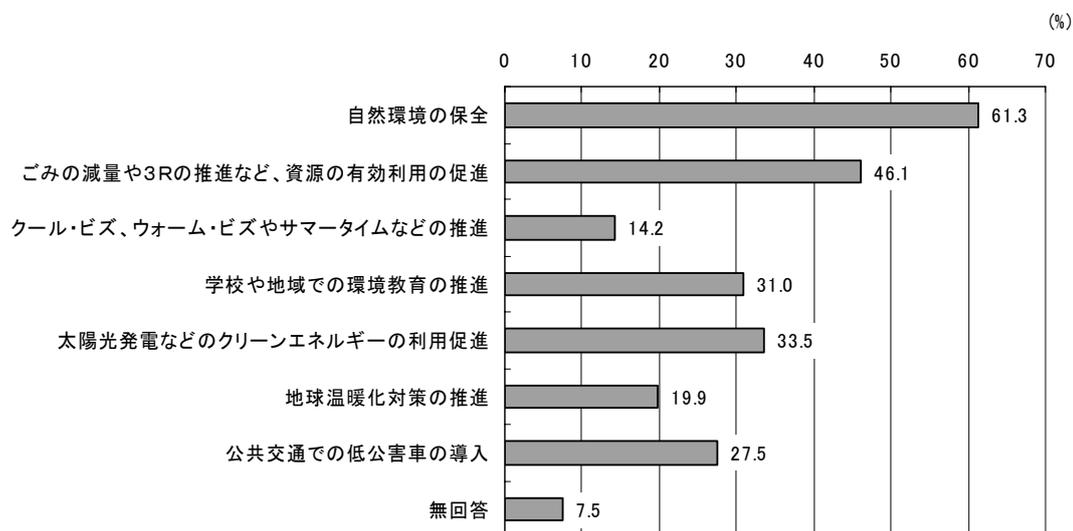


家族構成別にみると、三世帯世帯で「設置している」が1割近い。一方、二世帯世帯では「設置していないし、検討もしていない」が8割近い。(図3.4.3-1)

4) 市が力を入れるべき環境対策

問20 環境にやさしく住みよいまちづくりのため、奈良市は何に力を入れて取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの3つ以内に○)

図3.4.4 市が力を入れるべき環境対策【n=1,810】



市が力を入れるべき環境対策について、「自然環境の保全」が61.3%で最も高い。次いで、「ごみの減量や3Rの推進など、資源の有効利用の促進」が46.1%、「太陽光発電などのクリーンエネルギーの利用促進」が33.5%、「学校や地域での環境教育の推進」が31.0%の順となっている。(図3.4.4)

図3.4.4-1 年齢別 市が力を入れるべき環境対策

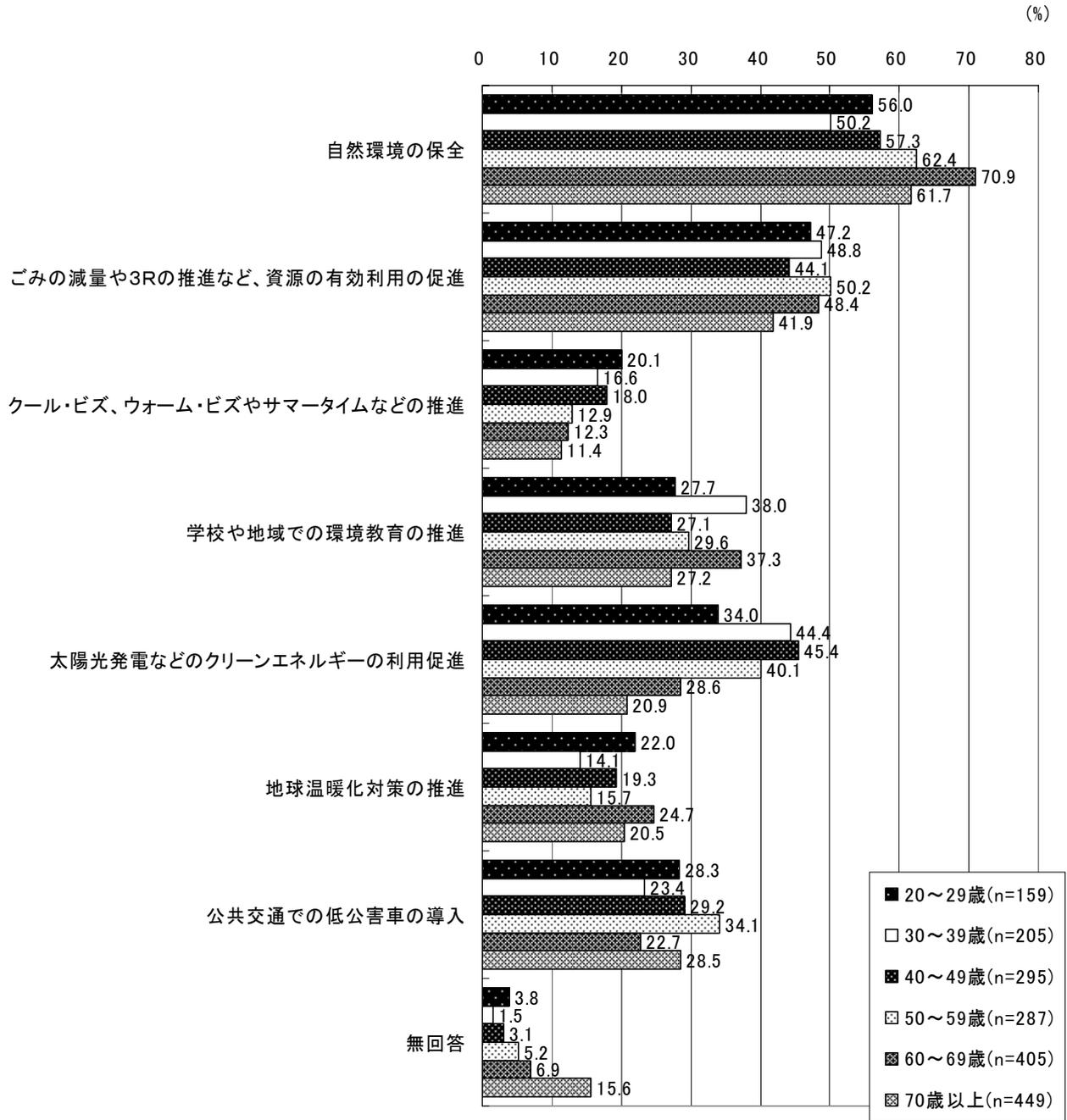
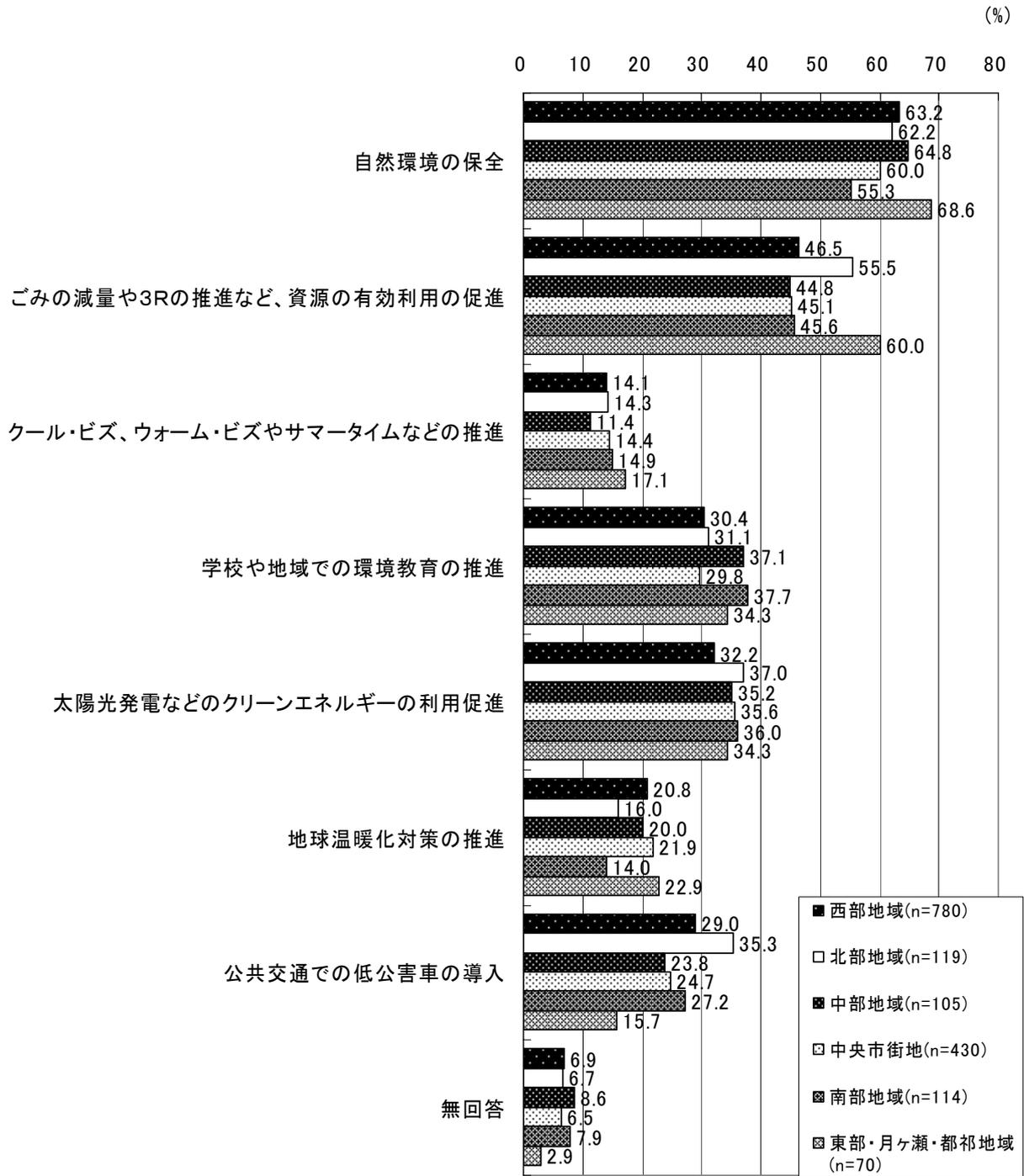


図3.4.4-2 地域別 市が力を入れるべき環境対策



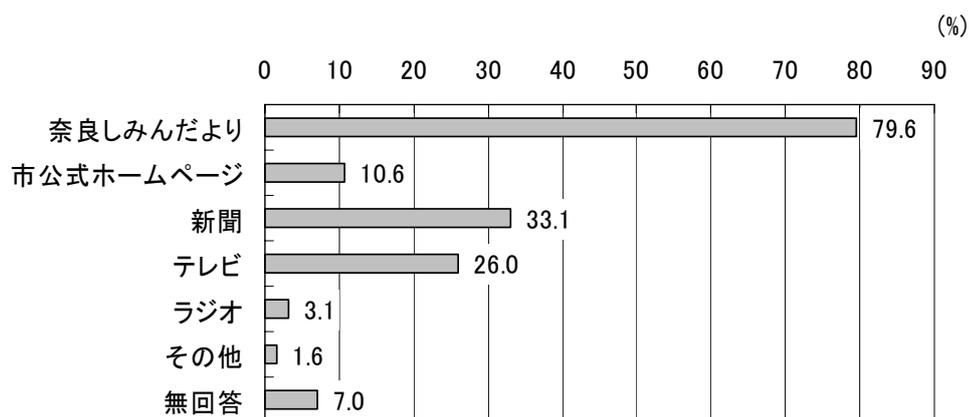
地域別にみると、すべての地域で「自然環境の保全」が最も高い。(図 3.4.4-2)

3.5 奈良しみんだよりについて

1) 市政に関する情報源

問2 1 あなたは、市政に関する情報を何から得ていますか。(あてはまるものすべてに○)
また、奈良市から情報発信する手段として、あったら良いと思うものがあればお書きください。

図3.5.1 市政に関する情報源【n=1,810】



市政に関する情報源について、「奈良しみんだより」が79.6%で最も高い。次いで、「新聞」が33.1%、「テレビ」が26.0%の順となっている。(図3.5.1)

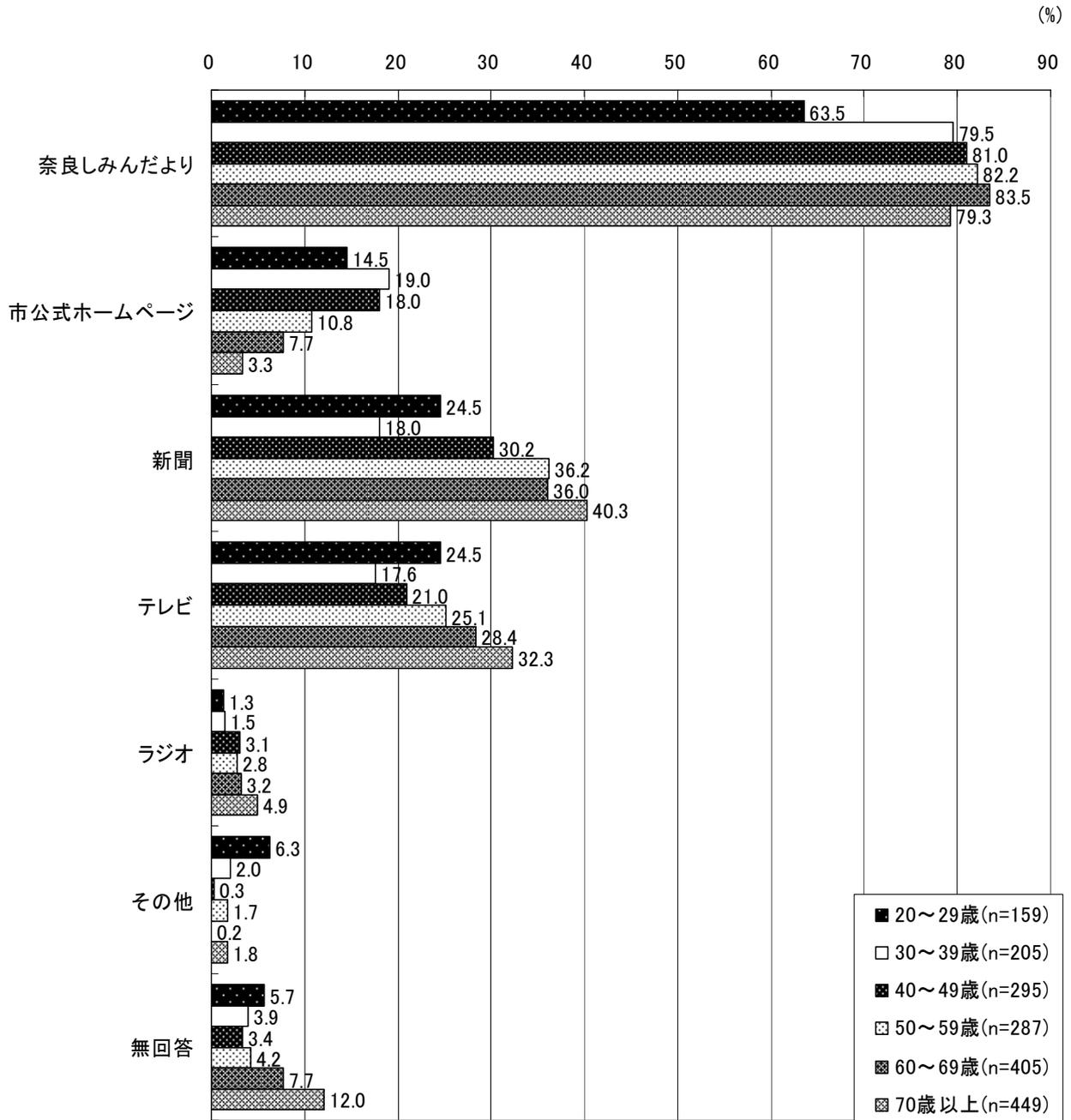
表 あったらよいと思う情報発信手段(自由回答)【n=103】

分類	回答数	構成比
ケーブルテレビ、奈良テレビ放送等の番組の充実	14	13.6
メールマガジン等(携帯以外)	12	11.7
携帯、スマートフォンのホームページ、アプリ、メール	10	9.7
掲示板、駅、店舗、バス停、電車・バスの中吊りなど	10	9.7
SNS(Facebook、twitter等)	7	6.8
市ホームページの充実	5	4.9
町内放送、有線放送、無線放送	5	4.9
新聞の充実	3	2.9
パンフレット、チラシ、ダイレクトメール	3	2.9
自治会(回覧板)等	3	2.9
その他	31	30.1
合計	103	100.0

奈良市から情報発信手段としてあったらよいと思うものを、回答された方の5.7%、103人の方から自由回答を得た。

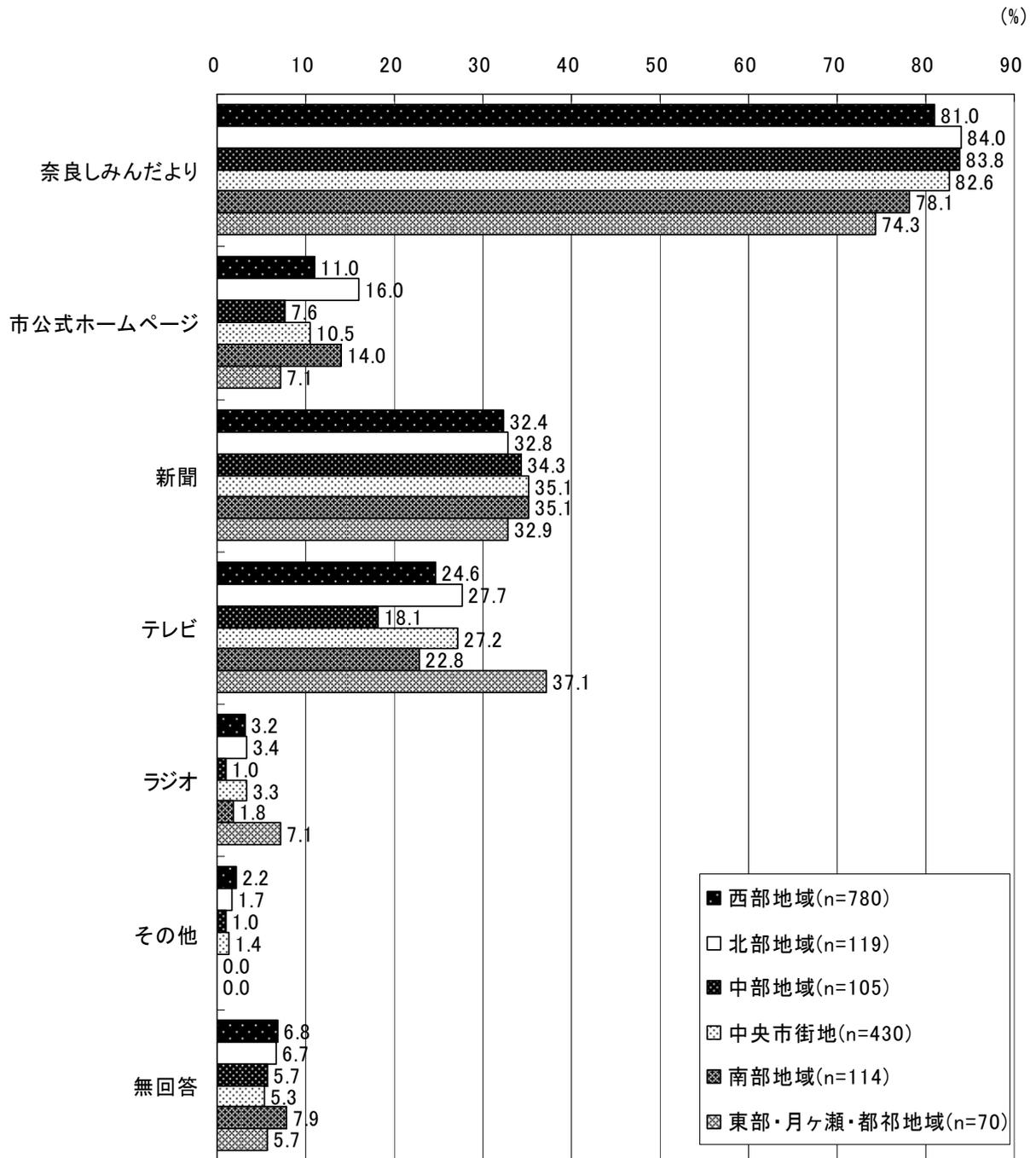
そのうち最も要望が多かった手段は、ケーブルテレビ、奈良テレビ放送等を通じた情報発信であった。そのほか、メールマガジン、携帯端末、SNSなどインターネットを活用した情報発信へのニーズも多かった。

図3.4.5-1 年齢別 市政に関する情報源



年齢別にみると、すべての年代で「奈良しみんだより」が最も高い。20~29歳を除いて、年齢が低いほど「市公式ホームページ」が高く、「新聞」と「テレビ」が低くなっている。(図 3. 4. 5-1)

図3.4.5-2 地域別 市政に関する情報源

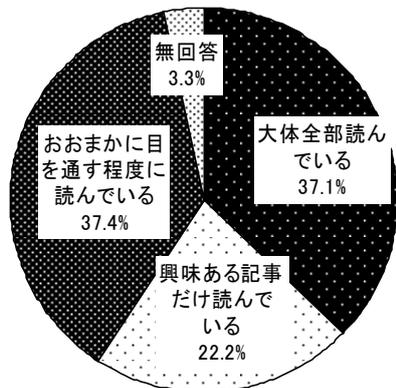


地域別にみると、すべての地域で「奈良しみんだより」が最も高い。北部地域と南部地域で「市公式ホームページ」が他の地域に比べ若干高い。東部・月ヶ瀬・都祁地域で「テレビ」が4割近くと高くなっている。(図3.4.5-2)

(1) 「奈良しみんだより」の閲読の程度

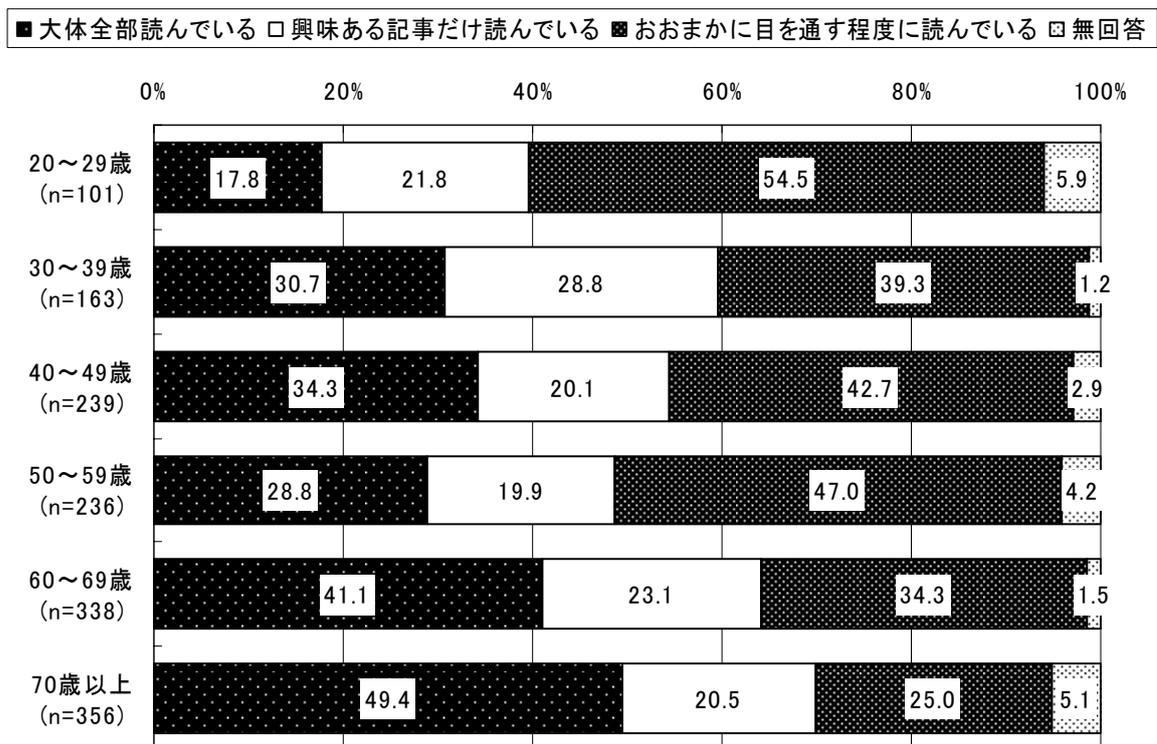
問2 1-1 問2 1で「1. 奈良しみんだより」を選んだ方にお伺いします。あなたは、「奈良しみんだより」（毎月1日発行、市公式ホームページにも掲載）をどの程度読んでいますか（あてはまるもの1つに○）

図3.5.1.1「奈良しみんだより」の閲読の程度【n=1,440】



市政に関する情報源として「奈良しみんだより」と回答された人について、どの程度読まれているかを尋ねたところ、「おおまかに目を通す程度に読んでいる」が37.4%で最も高い。ほぼ一方で、「大体全部読んでいる」が37.1%となっている。（図3.5.1.1）

図3.4.5.1-1 年齢別「奈良しみんだより」の閲読の程度



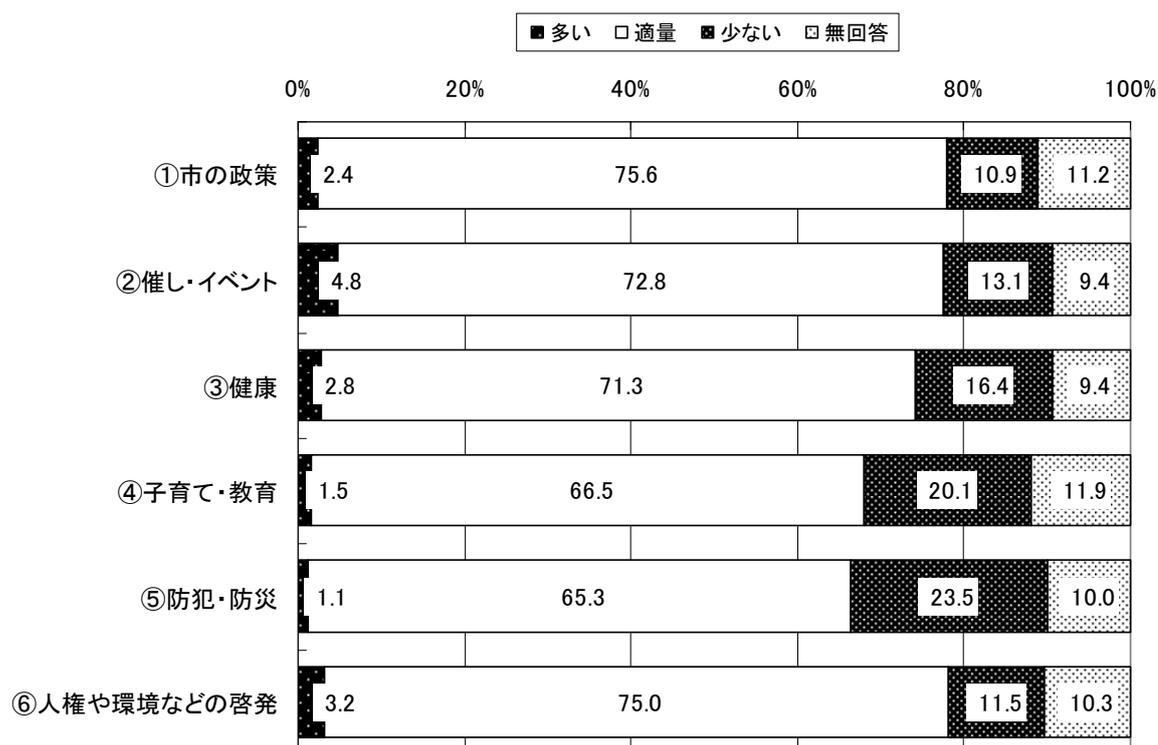
年齢別では、70歳以上で「大体全部読んでいる」が5割と高い。また、60～69歳で4割を超えている。一方、20～29歳で「大体全部読んでいる」が2割程度、「おおまかに目を通す程度に読んでいる」が5割を超えている。（図3.4.5.1-1）

(2) 「奈良しみんだより」に対する評価（情報量・見やすさ・重要度）

問2 1-2 問2 1で「1. 奈良しみんだより」を選んだ方にお伺いします。「奈良しみんだより」の記事について、情報量・見やすさ・重要度について次の項目ごとにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

(1) 情報量

図3.5.1.2.1 奈良しみんだよりの記事の情報量【n=1,440】

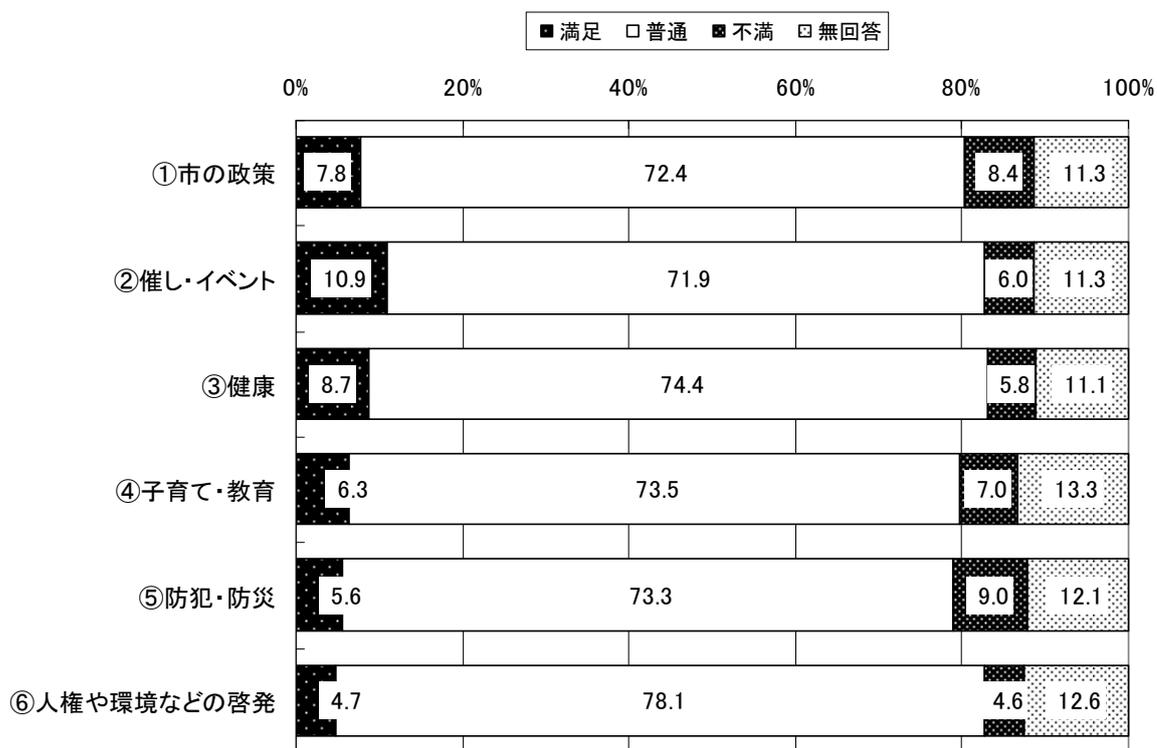


奈良しみんだよりの記事の情報量について「適量」だと感じている人は、『市の政策』と『人権や環境などの啓発』は8割近い。また、『催し・イベント』、『健康』、『子育て・教育』、『防犯・防災』は7割前後である。

情報量が「少ない」項目として、『防犯・防災』と『子育て・教育』は2割を超えている。(図3.5.1.2.1)

(2) 見やすさ

図3.5.1.2.2 奈良しみんだよりの記事の見やすさ【n=1,440】

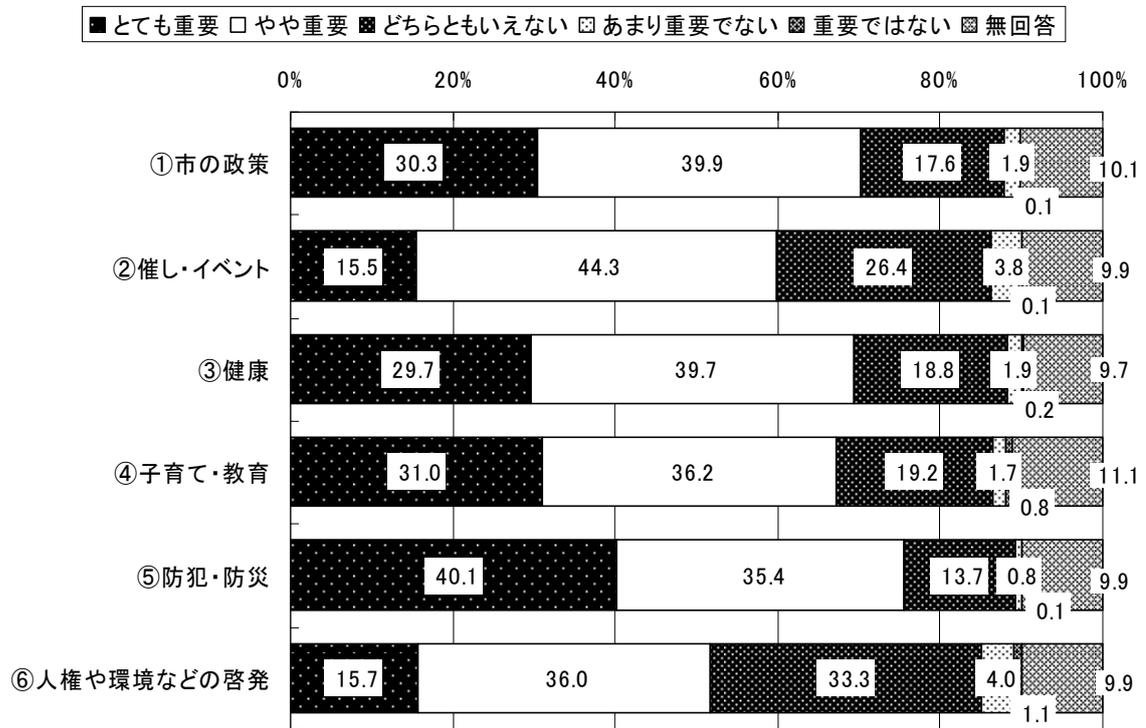


奈良しみんだよりの記事の見やすさについて、すべての項目で「普通」が7～8割である。『市の政策』と『人権や環境などの啓発』は8割近い。また、『催し・イベント』、『健康』、『子育て・教育』、『防犯・防災』は7割前後である。

『催し・イベント』と『健康』は、「不満」より「満足」が若干多い。一方、『防犯・防災』は、「満足」より「不満」が若干多い。(図 3.5.1.2.2)

(3) 重要度

図3.5.1.2.3 奈良しみんだよりの記事の重要度【n=1,440】



奈良しみんだよりの記事の重要度について、『防犯・防災』は「とても重要」と「やや重要」の合計が8割近い。また、『市の政策』、『健康』、『子育て・教育』が7割前後、『催し・イベント』が6割、『人権や環境などの啓発』が5割となっている。(図3.5.1.2.3)

3.6 市政への意見など（自由回答）

問23 奈良市政について、お気づきの点や感じていることについてご自由にお書きください。

奈良市政について、726人（40.1%）の方からご意見やご要望の回答があった。分類すると次のとおりであり、「市政」に関する意見・要望が26.9%で最も高くなっている。

表 奈良市政について(自由回答)

大分類	中分類	回答数	構成比
市政	議員	30	4.1%
	広報・情報公開	23	3.2%
	税金	21	2.9%
	財政	11	1.5%
	選挙	1	0.1%
	その他	109	15.0%
	計	195	26.9%
環境・まちづくり	道路・交通	73	10.1%
	ごみ、清掃・美化	42	5.8%
	まちづくりのイメージ	12	1.7%
	公園	12	1.7%
	自治会活動・コミュニティ	9	1.2%
	自然・緑化	8	1.1%
	上水道・下水道	6	0.8%
	景観	4	0.6%
	土地	4	0.6%
	省エネ・温暖化対策	2	0.3%
	その他	5	0.7%
	計	177	24.4%
市職員・市役所	職員	67	9.2%
	窓口業務	47	6.5%
	計	114	15.7%
保健・医療・福祉	児童福祉	28	3.9%
	生活福祉	14	1.9%
	高齢者福祉	12	1.7%
	福祉全般	11	1.5%
	医療費・健康保険料	8	1.1%
	医療機関	8	1.1%
	障がい者福祉	5	0.7%
	保健	1	0.1%
計	87	12.0%	
人権・教育・文化	学校教育	27	3.7%
	生涯学習・スポーツ施設	5	0.7%
	その他	16	2.2%
	計	48	6.6%
観光・商業・労働	観光	22	3.0%
	労働	5	0.7%
	商業	4	0.6%
	計	31	4.3%
災害・安全	安全・安心	11	1.5%
	防災	4	0.6%
	治安の維持・向上	3	0.4%
	計	18	2.5%
その他	アンケート	15	2.1%
	その他	41	5.6%
	計	56	7.7%
ご意見総数		726	100.0%